

Beyond testing, beyond limits, for a sustainable future together

アンリツ株式会社

2024年11月



東証 プライム
証券コード：6754
<https://www.anritsu.com>

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

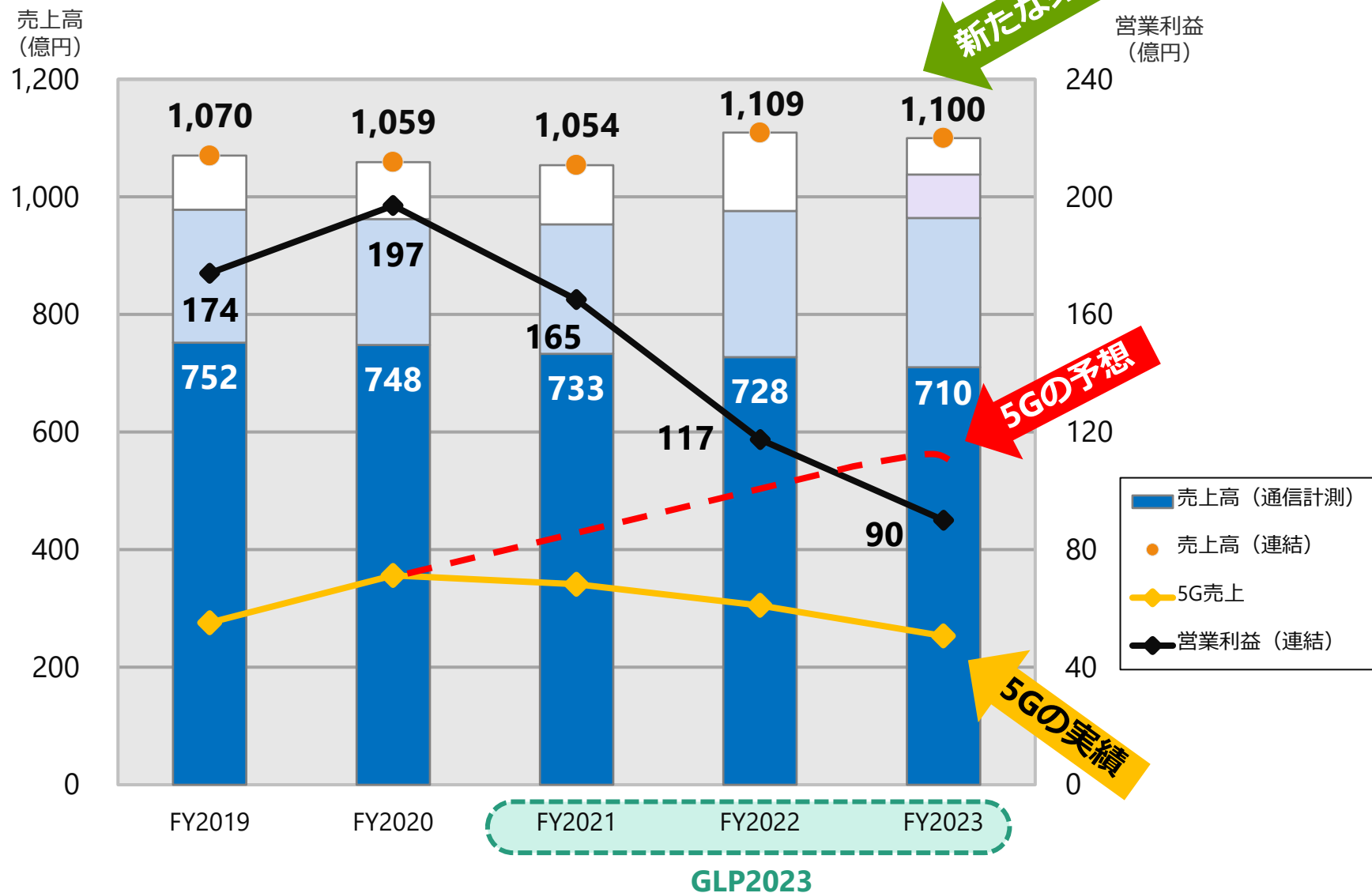
目 次

1. 中期経営計画 GLP2026
 2. 事業概要
 3. 通信計測事業
 4. PQA事業
 5. 環境計測事業
 6. 2025年3月期 第2四半期（中間期） 連結決算概要
- Appendix

1. 中期経営計画 GLP2026

- 1-1. 中期経営計画（GLP2023）レビュー
- 1-2. 中期経営計画（GLP2026）の基本方針
- 1-3. GLP2026とFY2030の目指す姿
- 1-4. 売上高・営業利益計画
- 1-5. 財務戦略
- 1-6. 人材戦略
- 1-7. 事業別GLP2026概要
- 1-8. サステナビリティ目標

1-1. 中期経営計画（GLP2023）レビュー



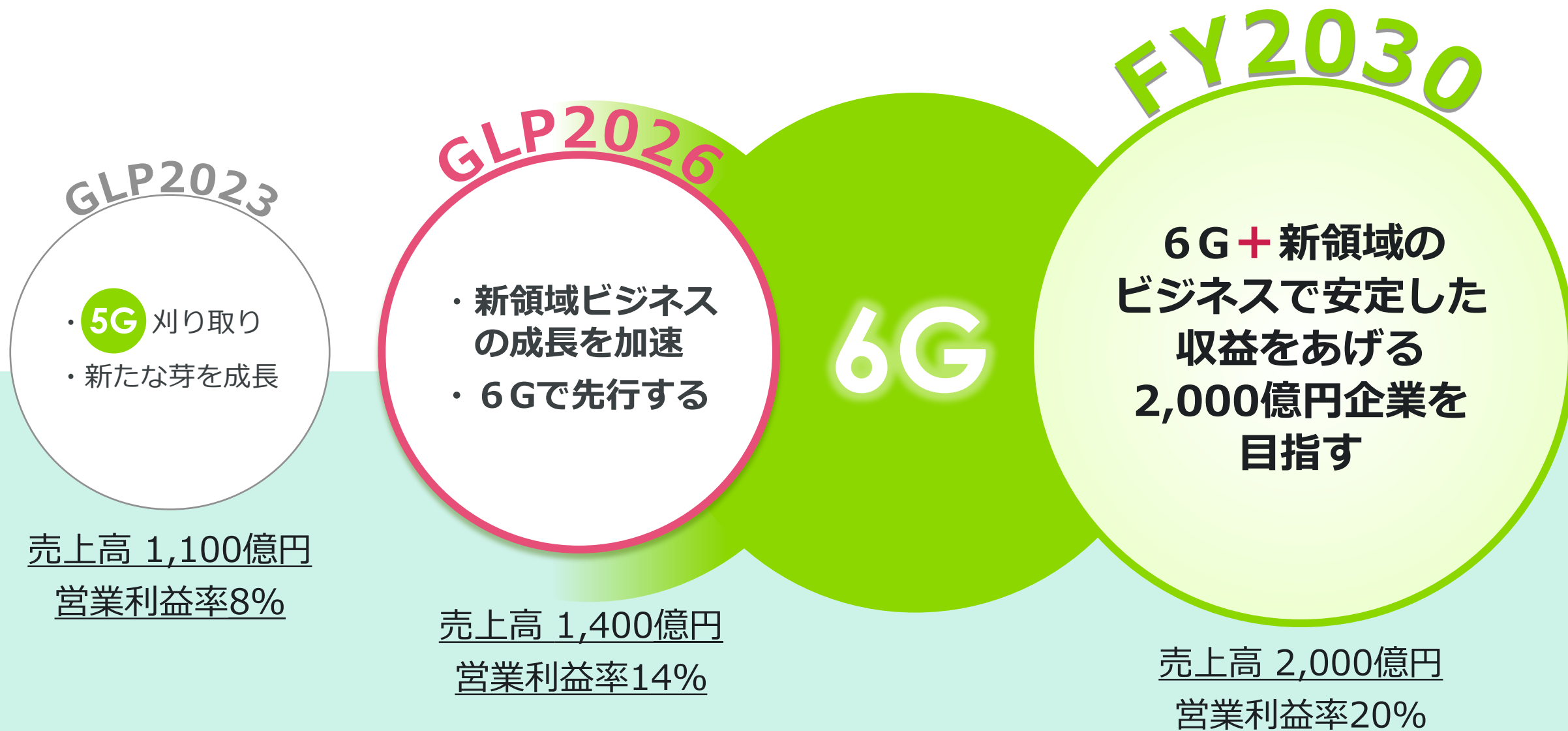
項目	成果
財務	売上1,100億円 営業利益90億円と 数値目標は未達も、 株主還元は計画通り実行 (配当性向：54%、 総還元性向：87%)
重点分野*	高砂製作所のM&Aにより EV・電池試験市場へ参入
通信計測	5G市場の縮小と世界的な インフレ圧力が続いたが、 生成AIの急拡大による データセンタ高速化需要 を獲得
サステナビリティ	女性管理職比率：12.1% (1.3ポイント上昇)

* 4つの重点分野：ローカル5G、EV・電池、医療・医薬品、光センシング

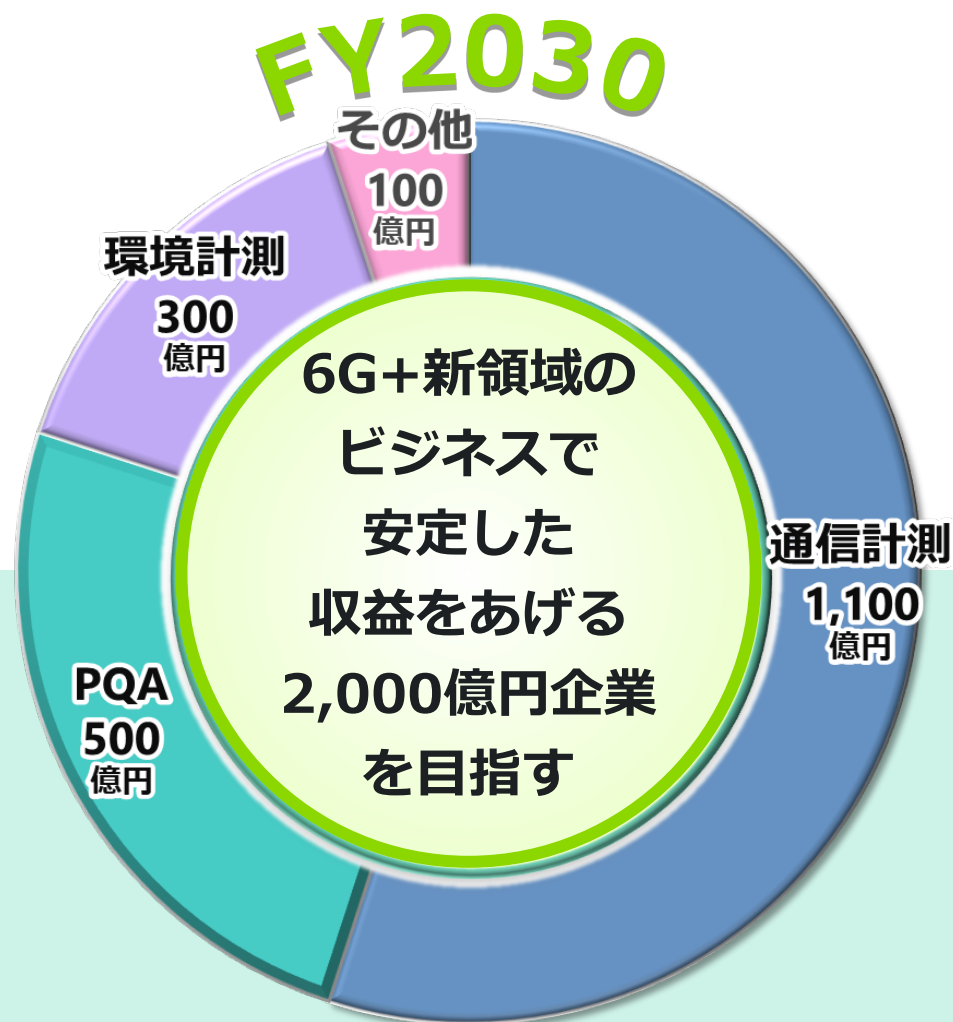
- 1 成長投資に400億円以上（M&A+設備投資）
- 2 ROE $\geq$ 10%を安定的に達成する事業ポートフォリオの構築
- 3 2026年度の営業利益の25%を通信計測以外で創出
- 4 新領域ビジネスの人材強化、全社での人材育成体制を構築
- 5 事業活動における資源循環(サーキュラーエコノミー)の実現
- 6 株主還元では配当性向50%以上を目指す

1-3-1. GLP2026とFY2030の目指す姿

「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。



1-3-2. FY2030の目指す姿



売上高 2,000億円

営業利益 400億円

営業利益率 20%

通信計測成長ドライバ

- 6G、IOWN
- 5G利活用
自動運転、スマートシティ
スマートファクトリー、
メタバース、衛星通信
- O-RAN、V-RAN
- 生成AIによる
ネットワーク高速化

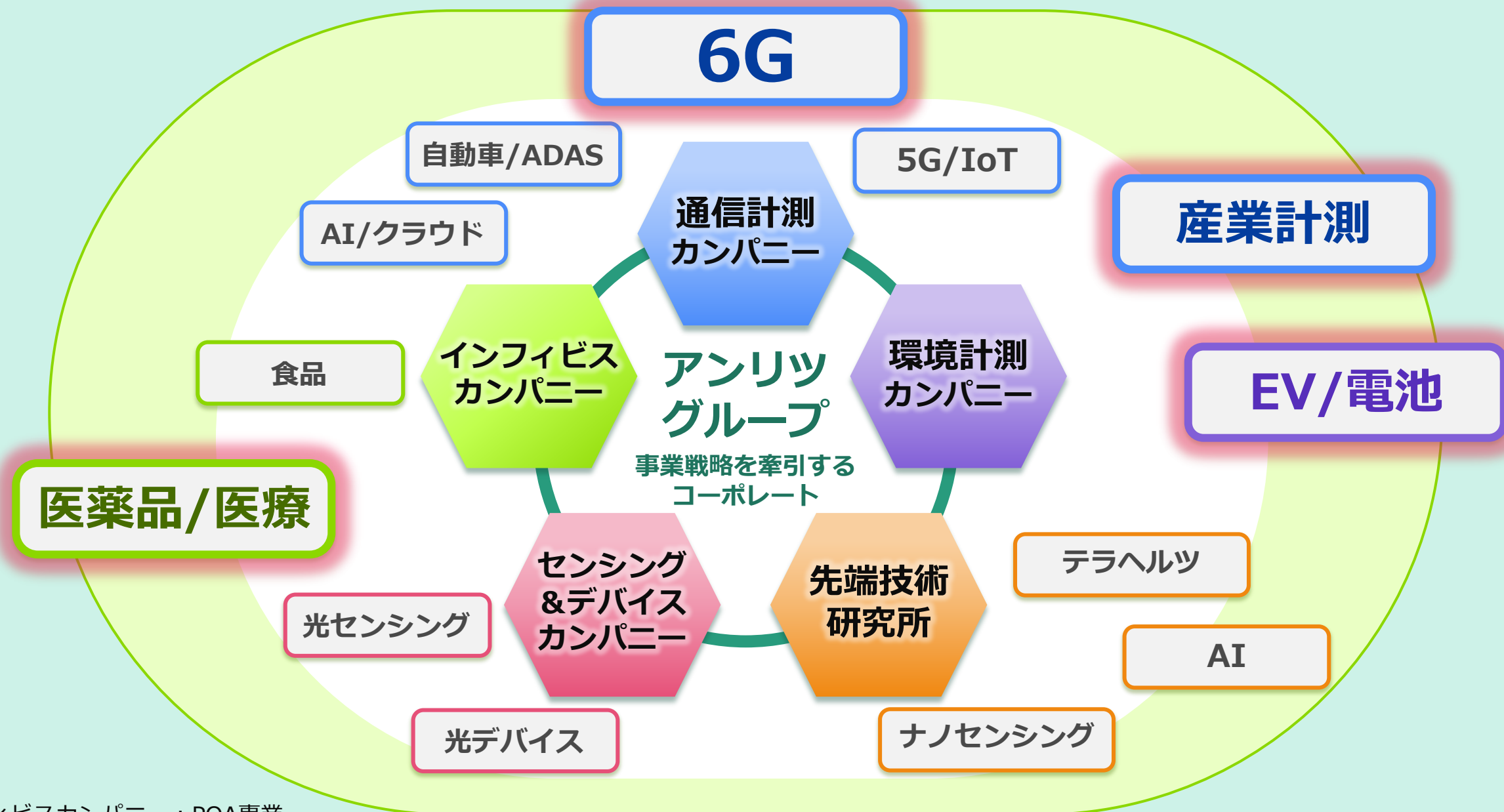
PQA成長ドライバ

- 食品市場での
グローバル事業拡大
- 医薬品市場への浸透
- AIを活用した
品質検査ビジネス

環境計測成長ドライバ

- EV・電池、
社会インフラの脱炭素化
- 産業DX、ローカル5G、
スマートファクトリー
- 社会インフラのスマート化
- グローバル展開

1-3-3. GLP2026 6Gと3つの新領域ビジネス



*インフィビスカンパニー：PQA事業

6G

6Gで先行。
要素技術、
キーデバイスで差別化

ビジネスオーナー

通信計測
カンパニー

300GHz要素技術

先端技術
研究所

キーデバイス

センシング
&デバイス
カンパニー

EV/電池

販売と製造で通信計測
事業がグローバル
に協力。
成長を加速

ビジネスオーナー

環境計測
カンパニー

販売・製造協力

通信計測
カンパニー

産業計測

通信計測事業と環境計
測事業で通信以外の
産業に汎用計測器を
拡販

ビジネスオーナー

通信計測
カンパニー

販売協力

環境計測
カンパニー

医薬品/ 医療

インフィビスとセンシ
ング&デバイスは光セ
ンシング技術等を使い、
医薬品、医療分野開拓

ビジネスオーナー

インフィビス
カンパニー

光センシング

センシング
&デバイス
カンパニー

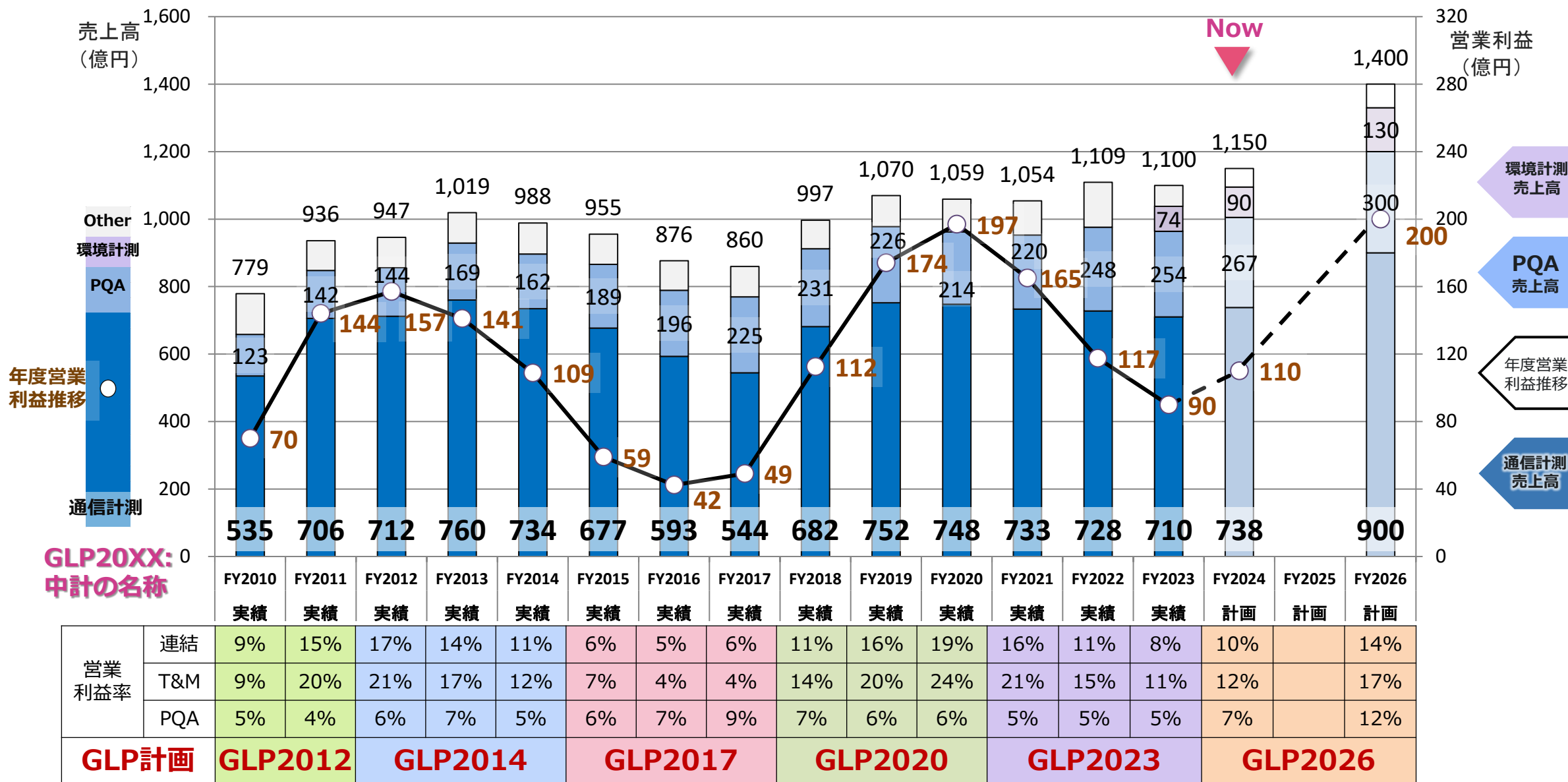
*インフィビスカンパニー：PQA事業

1-4-1. 売上高・営業利益計画（1/2）

指標		FY2023	FY2024	FY2026
売上高		1,100 億円	1,150 億円	1,400 億円
営業利益		90 億円	110 億円	200 億円
営業利益率		8 %	10 %	14 %
当期利益		77 億円	83 億円	150 億円
ROE		6 %	7 %	12 %
通信計測事業	売上高	710 億円	738 億円	900 億円
	営業利益	75 億円	92 億円	150 億円
	営業利益率	11 %	12 %	17 %
PQA事業	売上高	254 億円	267 億円	300 億円
	営業利益	13 億円	19 億円	36 億円
	営業利益率	5 %	7 %	12 %
環境計測事業	売上高	74 億円	90 億円	130 億円
	営業利益	5 億円	7 億円	14 億円
	営業利益率	7 %	8 %	11 %

（参考）GLP2026想定為替レート：1米ドル=145円、1ユーロ=155円

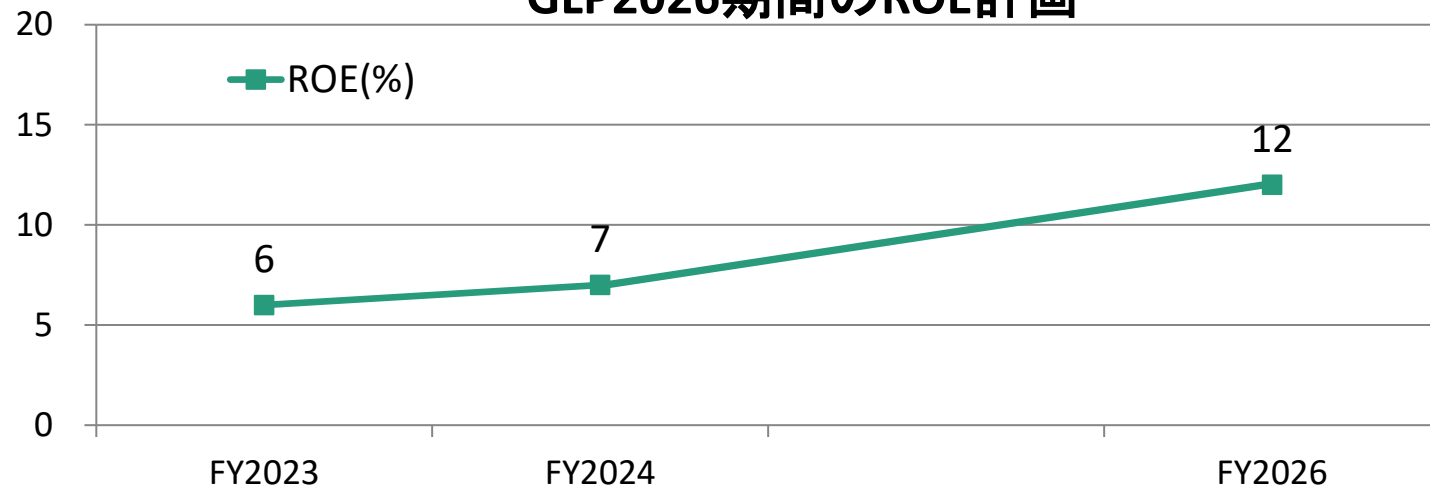
1-4-2. 売上高・営業利益計画 (2/2)



1-5-1. 財務戦略

1. 株主資本コスト（7%）を上回るROEの実現
企業価値KPI ROE $\geq$ 12%

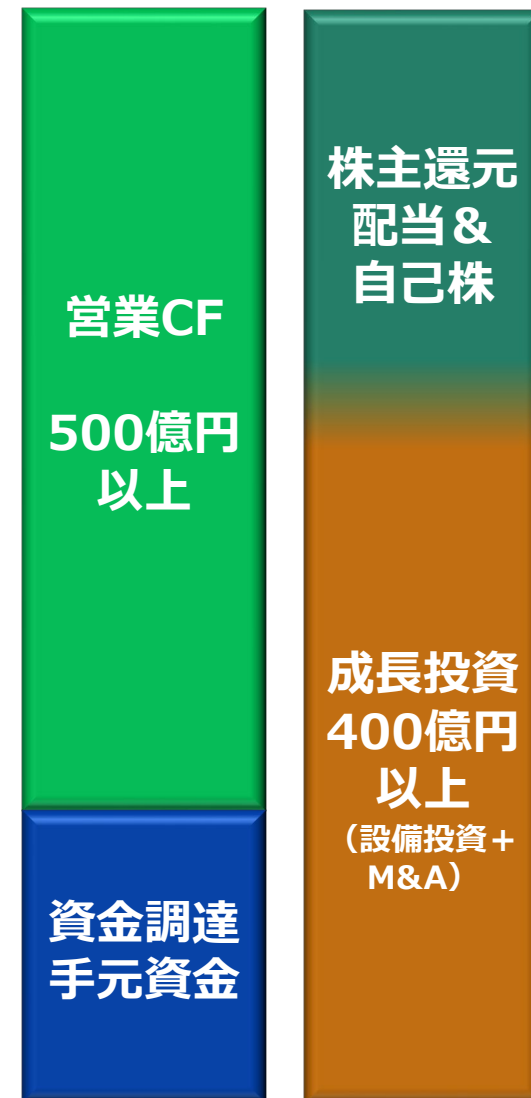
GLP2026期間のROE計画



2. キャピタルアロケーションの最適化

500億円以上の営業CFに加えて、資産効率性の向上と強固な財務体質を活かした資金調達によりキャッシュを創出し、新領域のビジネスを推進するために400億円以上の成長投資を行います。株主還元については、配当は連結配当性向50%以上を目標とし、自己株式の取得は必要に応じて機動的に実施致します。

GLP2026期間の
キャピタルアロケーション
キャッシュ創出 キャッシュ使途

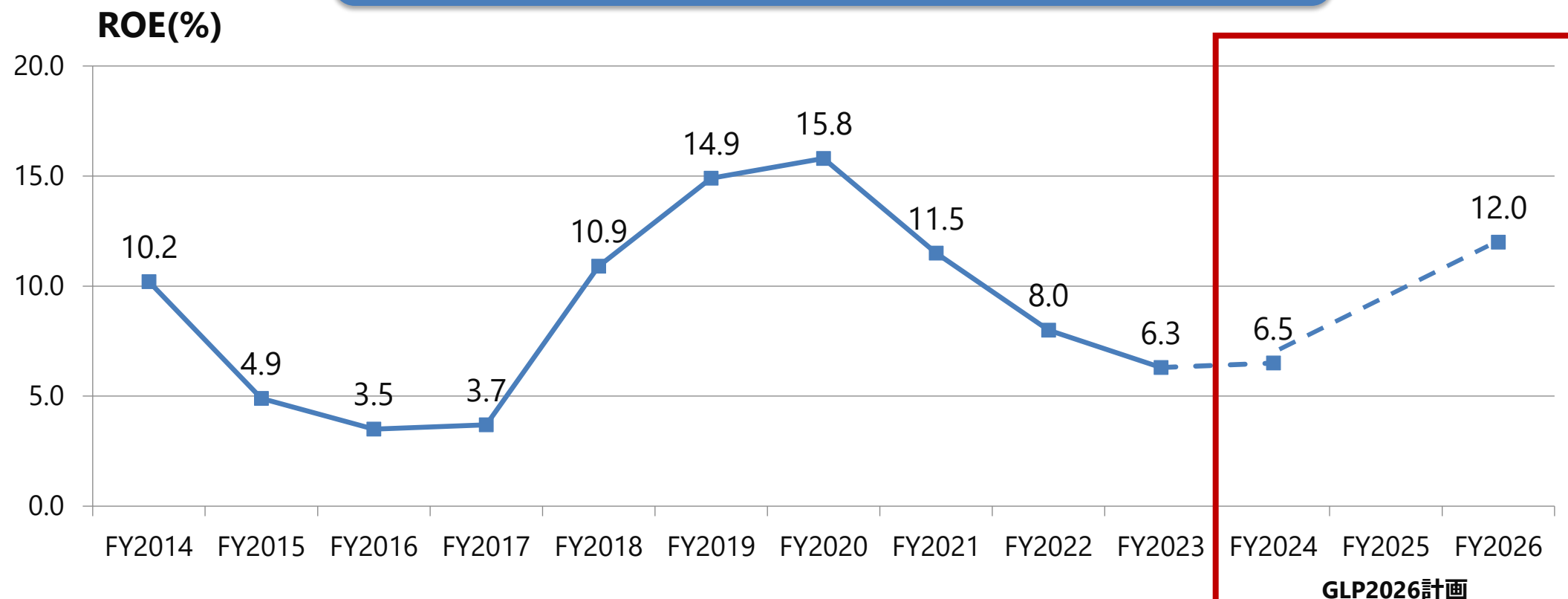


1-5-2. GLP2026 : ROE推移

- ◆ 成長性・収益性・効率性の重視
- ◆ 成長に向けた投資を強化
- ◆ 株主還元の充実

企業価値KPI

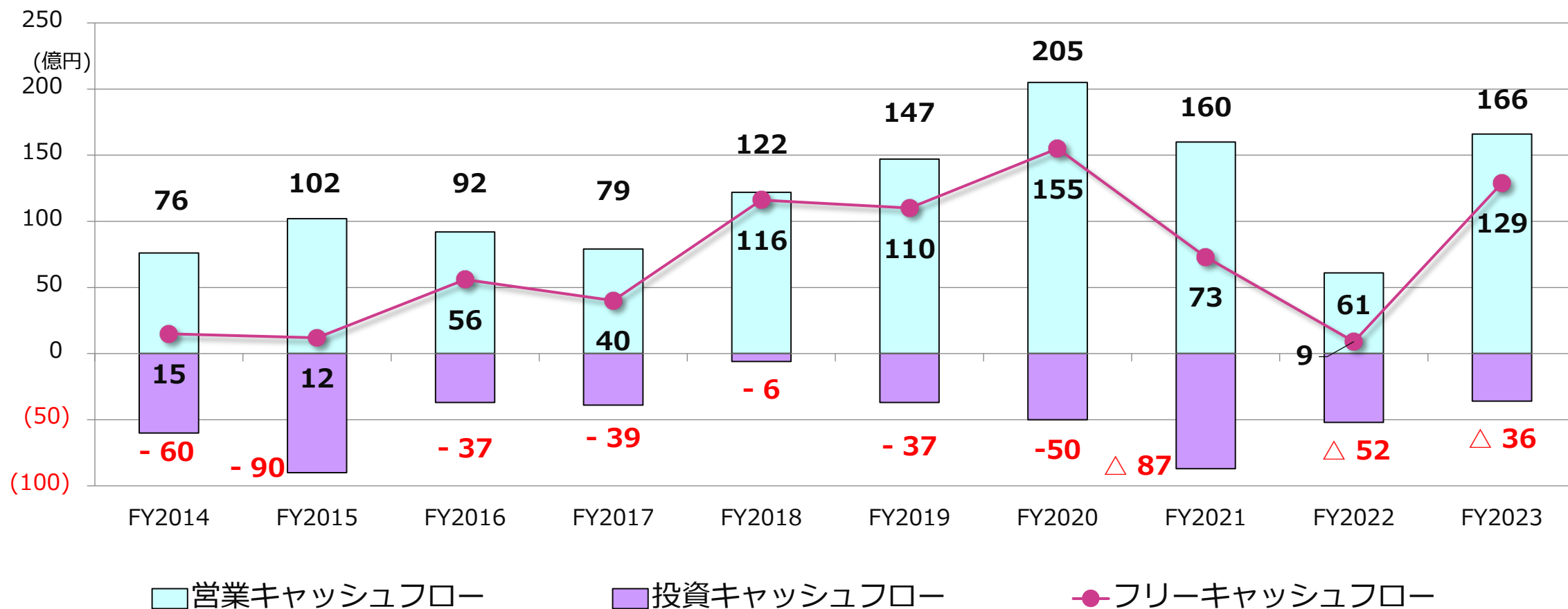
ROE $\geq$ 12%



1-5-3. GLP2026 : キャッシュフロー推移

キャッシュフロー経営の推進

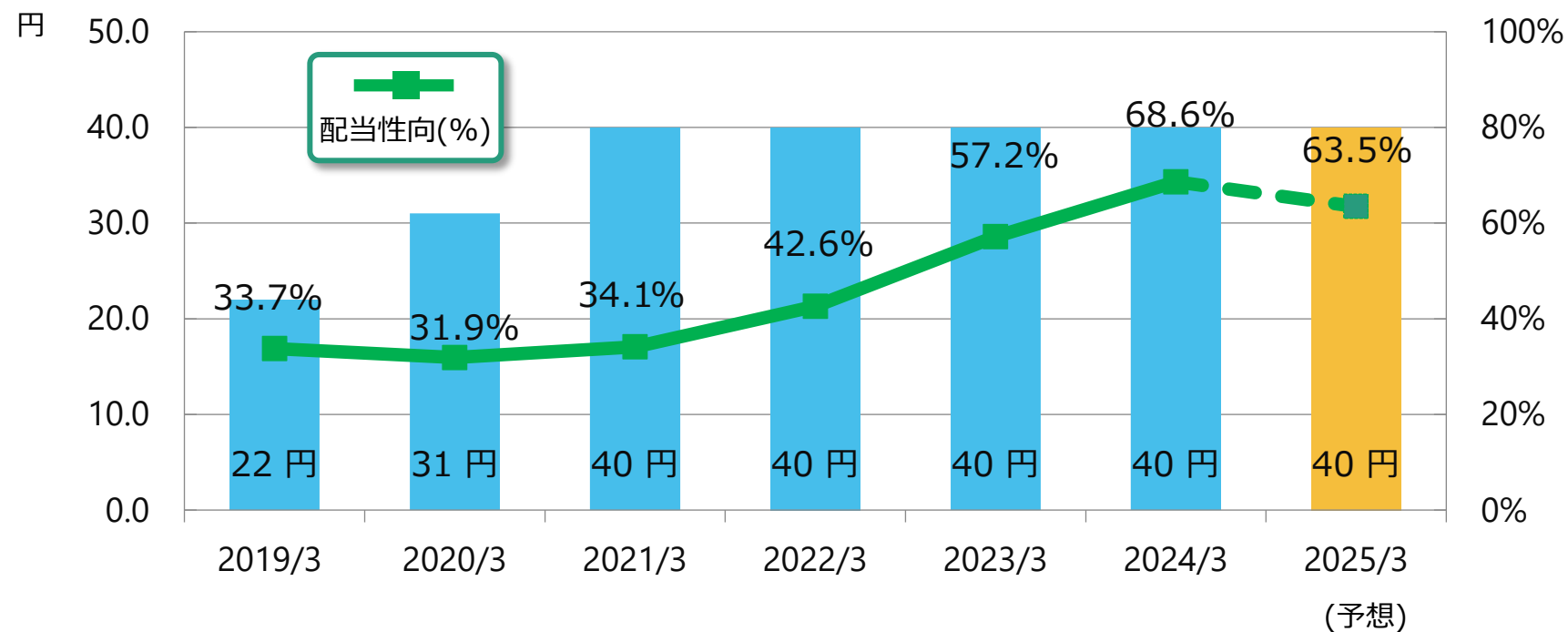
利益体質の強化と運転資本の効率化促進で営業CFを改善



キャッシュフローの推移

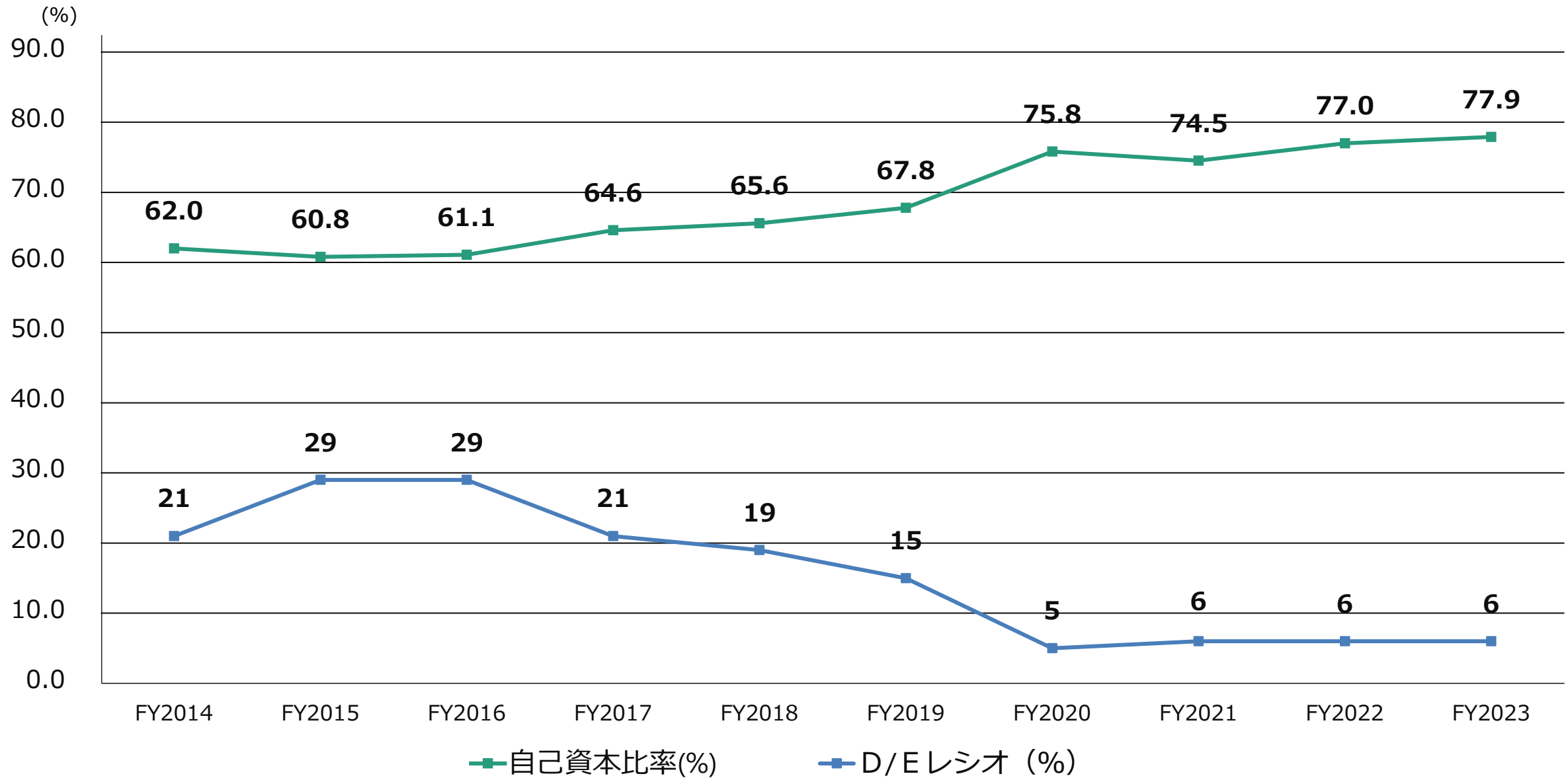
1-5-4. 配当予想について

2025年3月期 年間配当予想 : 40円

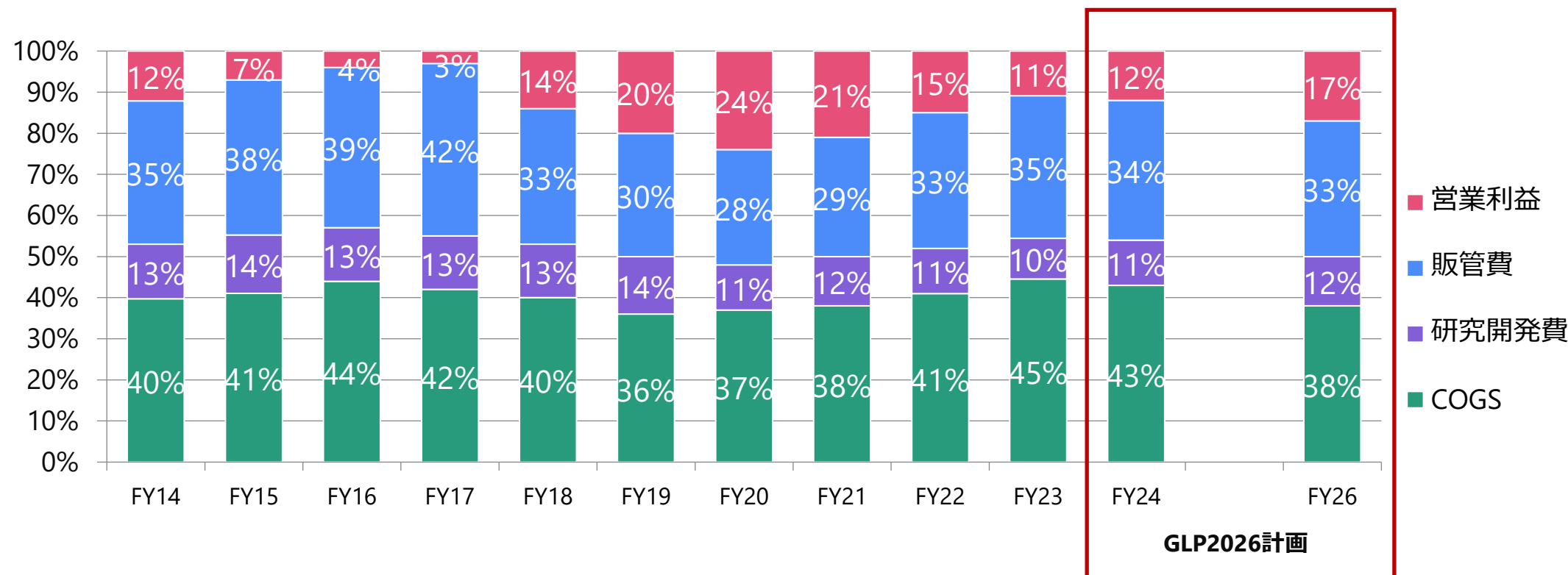


3年間の 配当性向	GLP2020 (FY2018～FY2020)	GLP2023 (FY2021～FY2023)
	33.3%	54.0%

1-5-5. GLP2026：自己資本比率とD/Eレシオの推移



1-5-6. GLP2026：通信計測事業 収益構造モデル



コスト構造の改善に向けて

- ・高付加価値ソリューションの投入(サポートサービス、ソフトウェア)
- ・開発 ROI & ROIC マネジメントの徹底(*1)
- ・競争力の維持・向上：顧客動向の変化に対応した組織体制と人的資源の最適配分

*1 KPI：開発ROI（売上総利益／開発投資額） ≥ 4.0

経営ビジョン	「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。		
経営戦略	既存事業の枠を超え、FY2030に売上高2,000億円、営業利益率20%を目指す		
	新領域ビジネスの開拓	強いものづくり	働き方改革
人材ビジョン	「会社と多様な従業員がベクトルを合わせ、事業(社会)貢献意識を持ち、仕事と私生活のバランスを取りながら生き生きと働いている」		
人材課題	<ul style="list-style-type: none"> 経営戦略に連動した人材確保と配置 年齢別人員構成：FY2030に向けコア・中堅層の不足、シニア層の活用 経営戦略実現に向けた職場風土醸成：成長・挑戦/多様性受容/仕事と生活のバランス 		

■ Initiative

● 成長事業・重点領域の人材確保と育成

- ✓ 経営戦略からトップダウンで人員計画を作成し、全体最適で戦略的な人員確保/配置/教育を行う
- ✓ 経営層、経営戦略部門、人事部門によるレビュー体制の確立（人材戦略レビュー）
- ✓ A-SKILLSを立ち上げ、カンパニー横断での人材育成体制を構築

● 若年/リーダー層の積極採用と育成、およびシニア層活用強化

- ✓ 新卒/キャリア問わず、若年層/コア人材の積極的な獲得を目指す
- ✓ 配置/職種転換の推進やリスキリング等の継続的な成長支援によるシニア層活用強化

● 経営/人材ビジョン実現に向けた職場風土醸成

成長・挑戦

- ✓ 自らの壁を取り払い、新たな領域に好奇心を持って取り組む人材、ステークホルダーや他社と共に社会課題の解決を目指す人材を育成する

多様性の受容

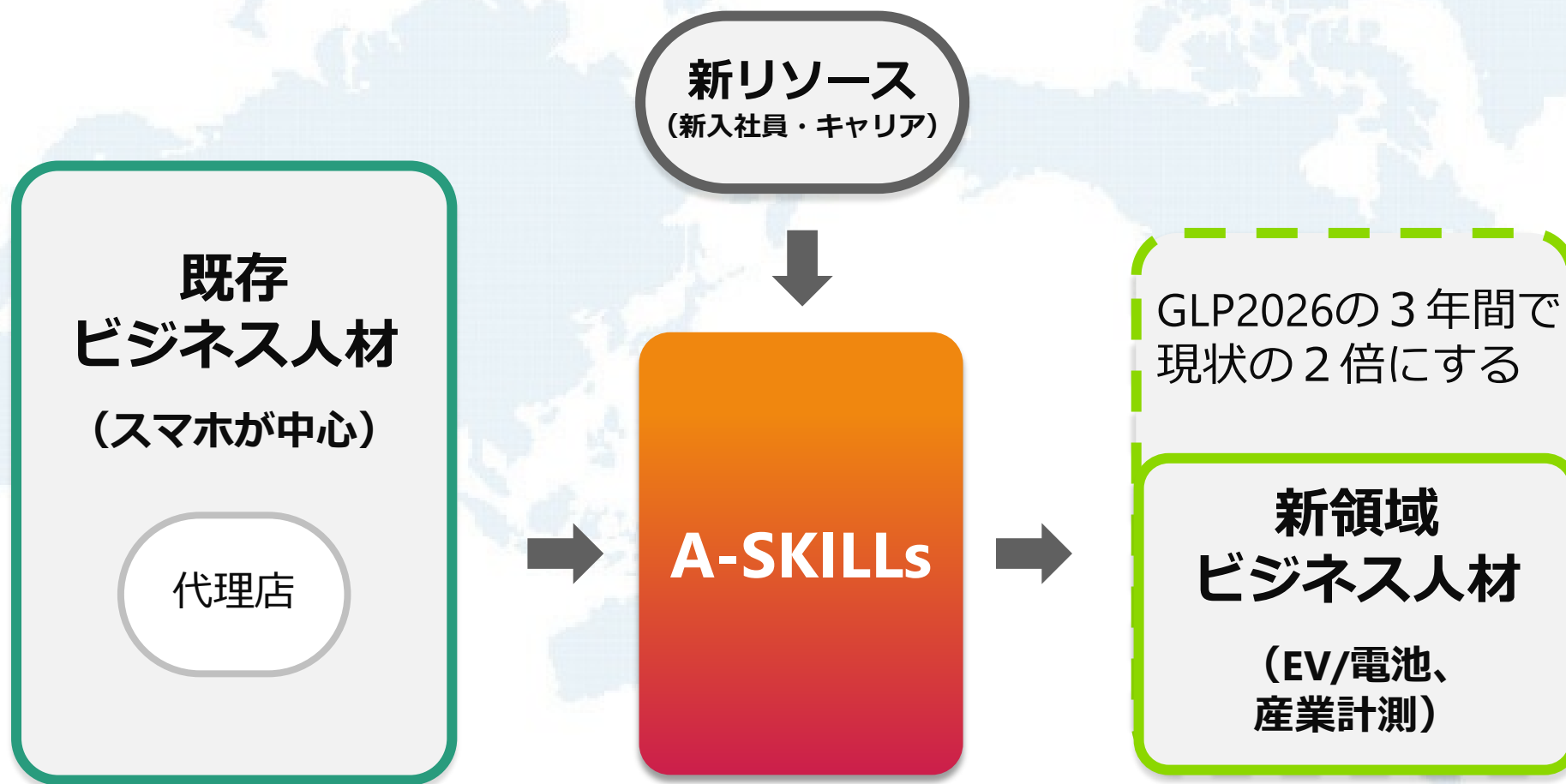
- ✓ 価値観や考え方も含め多様性を持つバラエティに富んだ人材が混ざり合い、多様な視点と強みを活かし新たな価値を創造する

ライフワークバランス、就業環境整備

- ✓ 「生活と仕事のバランスを考えて、働きやすく人生を楽しめる会社」と「労働生産性が高く働きがいがある会社」の両立に向けた制度・環境を整備する

Anritsu Skills Training Center (A-SKILLS)をスタート

- 新領域ビジネスの“技術”と“販売力”のスキルを身に着ける
- EV/電池計測、産業計測分野の人材をグローバルで増強



ビジョン

高品質で信頼性の高い通信テストソリューション、シミュレーションやサービスといった「はかるを超える」付加価値を提供し、DXの発展に貢献する。

通信の信頼性を上げることで社会の安全・安心を実現する。

計画達成に向けた方針

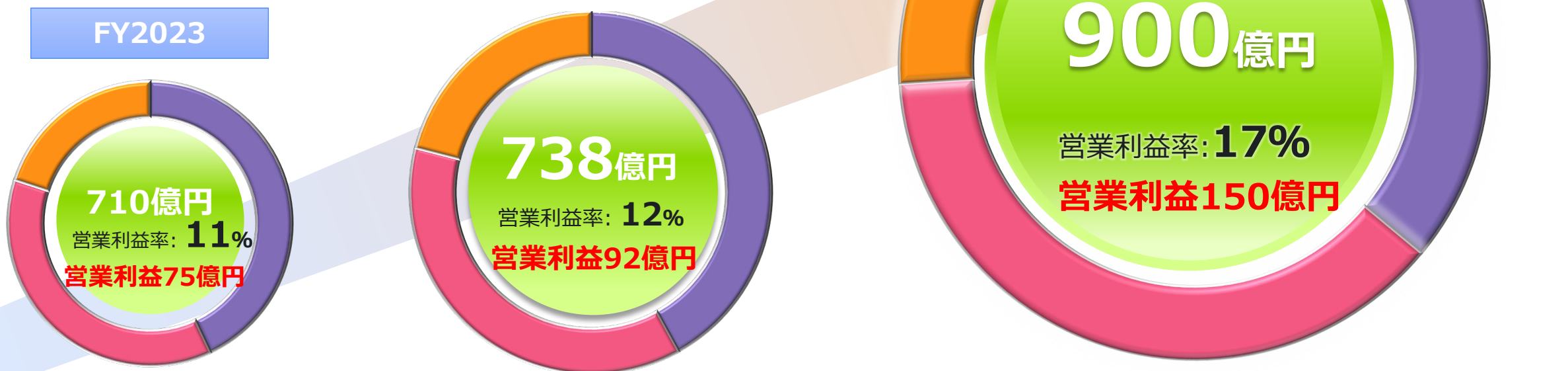
- ▶ 通信事業者、グローバルなデバイス・インフラベンダ、自動車関連ベンダに6G(サブテラヘルツ)、800GE/1.6TE、デジタルコヒーレント、テストとシミュレーションの高品質なソリューションを提供し、通信の安全・安心が担保できる社会基盤作りに貢献する
- ▶ 実環境での通信品質向上のための検証技術を世界に先駆けて確立する
- ▶ 6Gなどの次世代技術への投資を増大させる

1-7-2. 通信計測事業：GLP2026 売上高・営業利益計画

- ・生成AIによるネットワーク高速化（800GE、1.6TE）需要を獲得
- ・ソフトウェアビジネスを拡大し営業利益率を改善
- ・高周波帯向け通信計測器ラインナップの拡充とそれらに携わる技術体制の拡充（人材への投資）

凡例

- モバイル
- エレクトロニクス
- ネットワークインフラ



グラフはイメージ

ビジョン

**持続可能な未来に向けて、世界中のお客様から
最も信頼される品質保証の First to Call カンパニーになる**

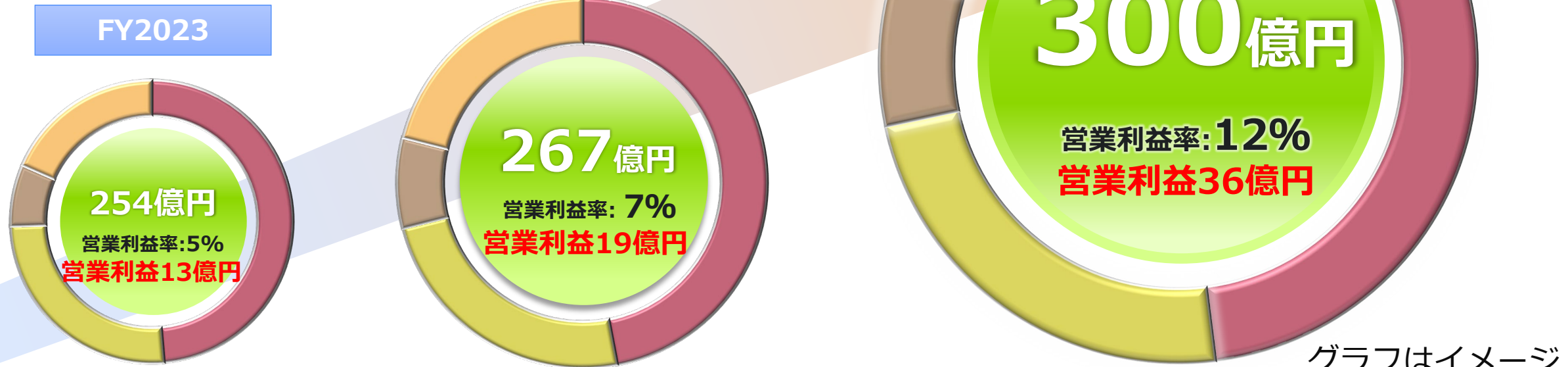
計画達成に向けた方針

- ▶ グローバル市場への事業拡大
- ▶ お客様の課題を解決する独創的な品質保証ソリューションの創造
- ▶ 医薬品/医療市場への事業拡大

1-7-4. PQA事業：GLP2026 売上高・営業利益計画

- ・顧客価値の高いソリューションの創出：
AIなど先端技術の獲得、生産ラインの自動化・省人化
- ・高付加価値領域への事業拡張：
人手に頼っている検査の自動化、医薬品製造市場
- ・強靱な利益体質の構築：
サプライチェーンのグローバル最適化、業務プロセス改革

凡例



ビジョン

持続可能な社会の実現に貢献するソリューションを提供し、カーボンニュートラル、産業のデジタル変革、社会インフラのレジリエンスに向けた課題解決に不可欠な存在として認知され確固たる地位を確立する

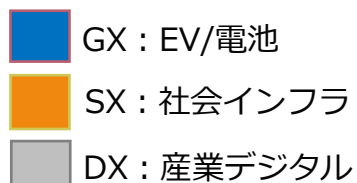
計画達成に向けた方針

- ▶EV/電池試験ソリューションの継続強化により市場成長以上の事業成長を実現する
- ▶EV/電池試験ソリューションのグローバル(北米市場)展開をGLP2026で軌道に乗せる
- ▶「つなぐ技術」で製造現場の効率化/省人化を実現する
- ▶社会の安全・安心を守る通信インフラの次世代化に貢献する

1-7-6. 環境計測事業：GLP2026 売上高・営業利益計画

- ・国内EVパワートレイン試験、およびEV関連の裾野市場で優位なポジションを維持
- ・EV/電池試験や電源ビジネスのグローバル展開に向けた取組みの加速
- ・製造現場映像ソリューション“AccelVision”の事業拡大
- ・人々の安全と安心を守るネットワークソリューションの拡充

凡例



FY2023



FY2024



FY2026



グラフはイメージ

1-8. サステナビリティ目標

目標・取組

GLP2026:KPI

E
環境

温室効果ガスの削減

- 温室効果ガス（Scope1+2）（※）：2021年度比 23%以上削減
- 温室効果ガス（Scope3）（※）：2019年度比 17.5%以上削減
…2030年度で、Scope1+2は42%以上、Scope3は27.5%以上削減

自家発電比率の向上(PGRE 30)

- 自家発電比率：14%以上 … 2030年ごろまでに30%程度まで高める

資源循環(サーキュラーエコノミー)の実現

- 資源循環に対応した製品をリリースする
- プラスチックごみを100%マテリアルリサイクル

ダイバーシティ経営の推進

- 女性の活躍推進：女性管理職比率 15%以上
- 障がい者雇用促進：職域開発による法定雇用率 2.7%達成

S
社会

働きがいのある労働環境の実現

- 社員満足度調査の働きがいポジティブ回答率：80%以上

グローバルなCSR調達の推進 (環境、労働環境、人権などにおける社会的責任)

- サプライチェーン・デューデリジェンスの強化：10社/年以上
- CSR調達に係るサプライヤへの情報発信：3回/年、教育2回/年以上

G
ガバナンス

グローバルなガバナンス向上

- 取締役の多様性の推進：女性取締役比率 20%以上
- 取締役会における重要経営課題の集中討議 6回/年

(※) Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)、Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出、Scope3：カテゴリ1(購入した製品・サービス)+カテゴリ11(販売した製品の使用)における間接排出

2. 事業概要

2-1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ◆ モバイル市場 : 5G、5G利活用
- ◆ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光NW、無線NW
- ◆ エレクトロニクス市場 : 基地局建設保守、電子部品、無線設備



PQA事業

食と医薬品の安全・安心

- ◆ 食品検査市場
- ◆ 医薬品検査市場



環境計測事業

脱炭素社会を目指して

- ◆ EV/電池試験市場
- ◆ ローカル5G導入支援



その他

- ◆ センシング & デバイス
- ◆ その他



(セグメント別売上比率)

2024年3月期 実績 (連結) : 1,100億円

通信計測 64%			PQA 23%	環境計測 7%	その他 6%
モバイル 42%	ネットワーク・インフラ 36%	エレクトロニクス 22%			

2025年3月期 (4-9月) 実績 (連結) : 533億円

通信計測 64%			PQA 24%	環境計測 7%	その他 5%
モバイル 41%	ネットワーク・インフラ 39%	エレクトロニクス 20%			

(通信計測事業 地域別売上比率)

2024年3月期 実績

日本 16%	アジア他 38%	米州 26%	EMEA 20%
--------	----------	--------	----------

2025年3月期 (4-9月) 実績

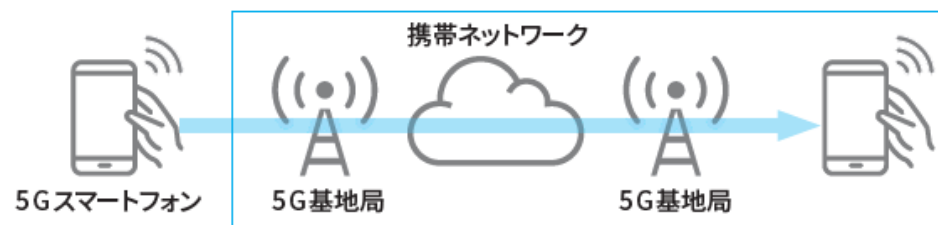
日本 14%	アジア他 40%	米州 28%	EMEA 18%
--------	----------	--------	----------

2-2. 通信計測事業

提供するソリューション：スマートフォン開発

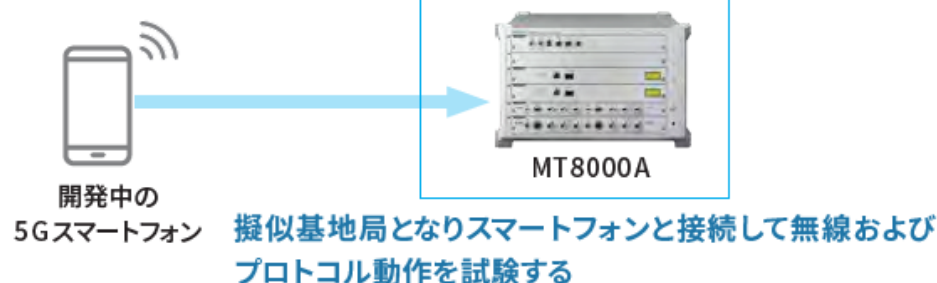
スマートフォンの開発において、最新の3GPP規格に適合させるために、アンリツの測定器が擬似的な基地局となり、「無線」および「通信プロトコル」動作のデバッグを実施する環境を提供。スマートフォン開発エンジニアは、自身の設計の動作検証が可能。

● 実環境



擬似化

● 試験環境



開発中のスマートフォンは、実環境の基地局に接続することはできません。アンリツのMT8000Aは、擬似的に基地局とネットワークをエミュレートすることで、開発中のスマートフォンとつながり、エンジニアのデバッグをサポートします。

チップ開発・商用化端末開発

チップセットメーカーの
技術検証



端末メーカーの結合・
性能評価



大勢のエンジニアが、各自の開発担当箇所をMT8000Aを使用してデバッグします。

商用化端末開発



端末メーカー／テストハウス
規格適合性試験

最後は、規格適合性試験システムで、開発したスマートフォンが3GPPの規格に適合しているか検証し、商品化します。

事業者
受入試験

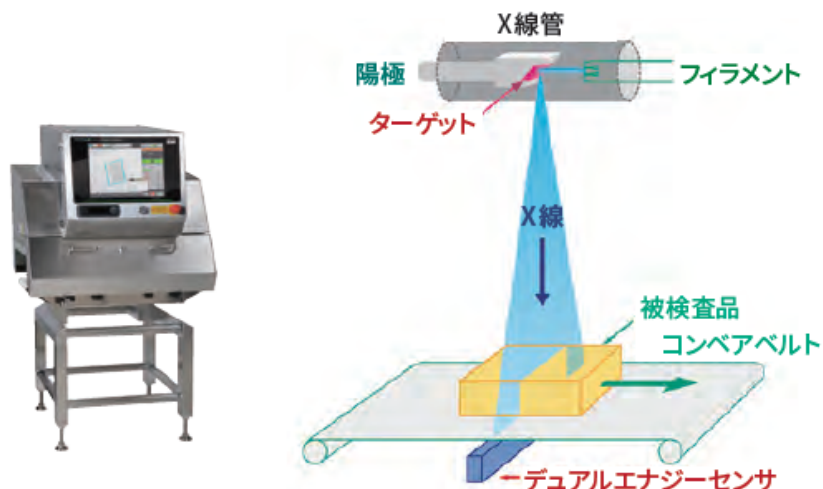


2-3. PQA 事業

提供するソリューション：食の安全・安心

検査品の内部を透視するX線検査で、さまざまな食品の生産ラインにおいて、異物だけでなく、検査品の形状不良や数量不足の検査が可能。

より確実で高度な品質管理に向けて、独自のソリューションを提供。



鶏肉の残骨検査



異物検査

食品などに含まれる石やプラスチック、残骨などを検出します。



欠品検査

お弁当のおかずに欠品がないか検査します。

ポテトサラダパウチ包装での検査。
かみこんだ食品はX線をシール部より多く吸収。



かみこみ検査

食品のパッケージのシール部分に、内容物がかみこんでいないかを検査します。

■ 先端技術を導入することで高感度検出を実現

フィルタリング技術

透過画像に施す信号処理（フィルタリング）を組み合わせで実施することで異物信号の抽出能力を向上

画像処理技術

信号処理と画像解析アルゴリズムの高度化により、不適切部分を正確に指示



EV/バッテリー開発



EVパワートレイン
エミュレーション

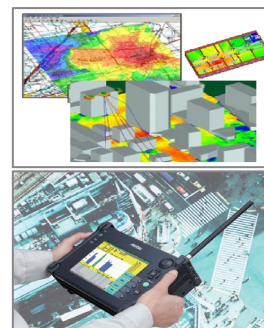


バッテリー充放電
試験システム

EVの主要部品であるバッテリー、インバータ、モーターの性能や信頼性評価に用いられる各種試験装置を提供



スマートファクトリー



ローカル5G
導入・運用・活用
支援サービス



製造DX支援システム

工場の省人化や生産性向上に向けて
ローカル5Gやデジタル技術の導入と活用を支援

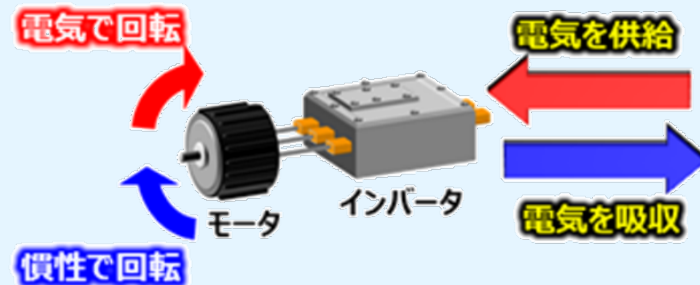
EVの駆動系やバッテリーの試験に使われる**試験用高电压電源**

アプリケーションで目的に合わせた用途変更

【電池評価】



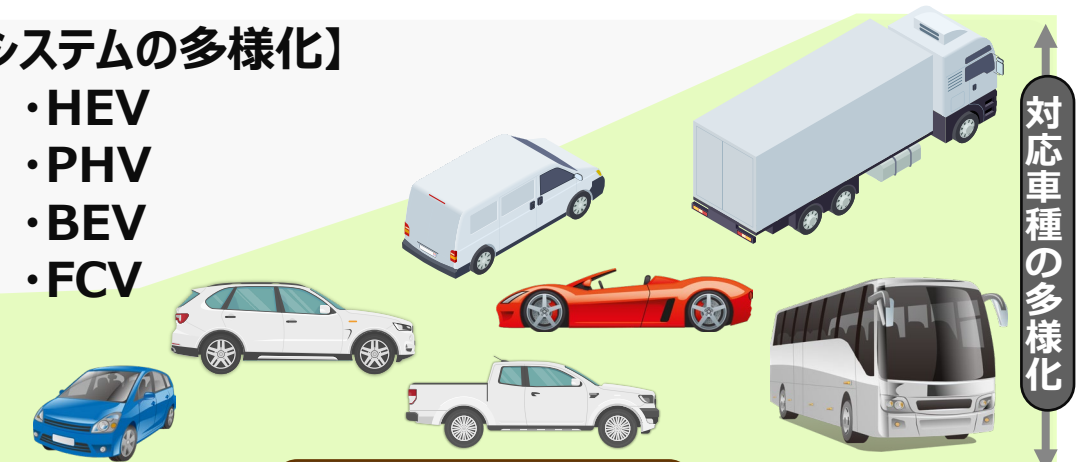
【インバータ・モータ評価】



電圧/電流の容量変化に応じた直列/並列構成

【システムの多様化】

- ・HEV
- ・PHV
- ・BEV
- ・FCV



電気容量(電圧/電流)

RZ-X2-100K

試験要求に応じて柔軟に拡張

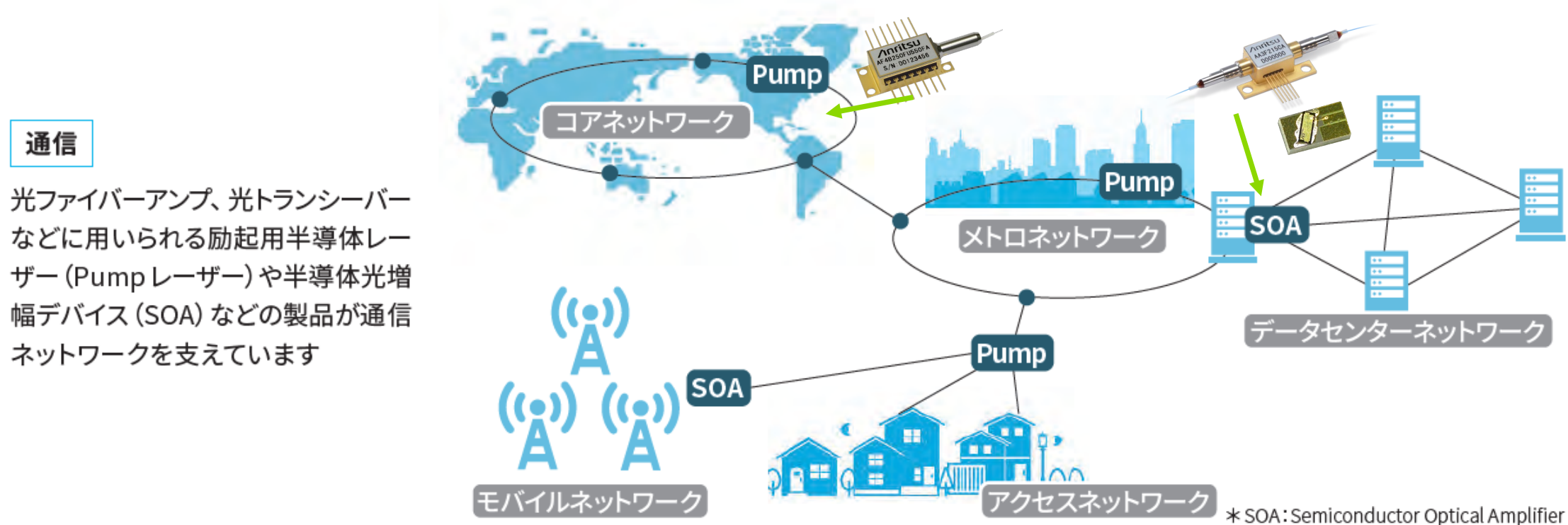
電池充放電試験

駆動系試験

提供するソリューション

①光通信市場：光信号をそのまま増幅する光ファイバーアンプに用いられる励起用の半導体レーザー、光信号の劣化を防ぐ目的で光トランシーバーに搭載される半導体光増幅デバイス

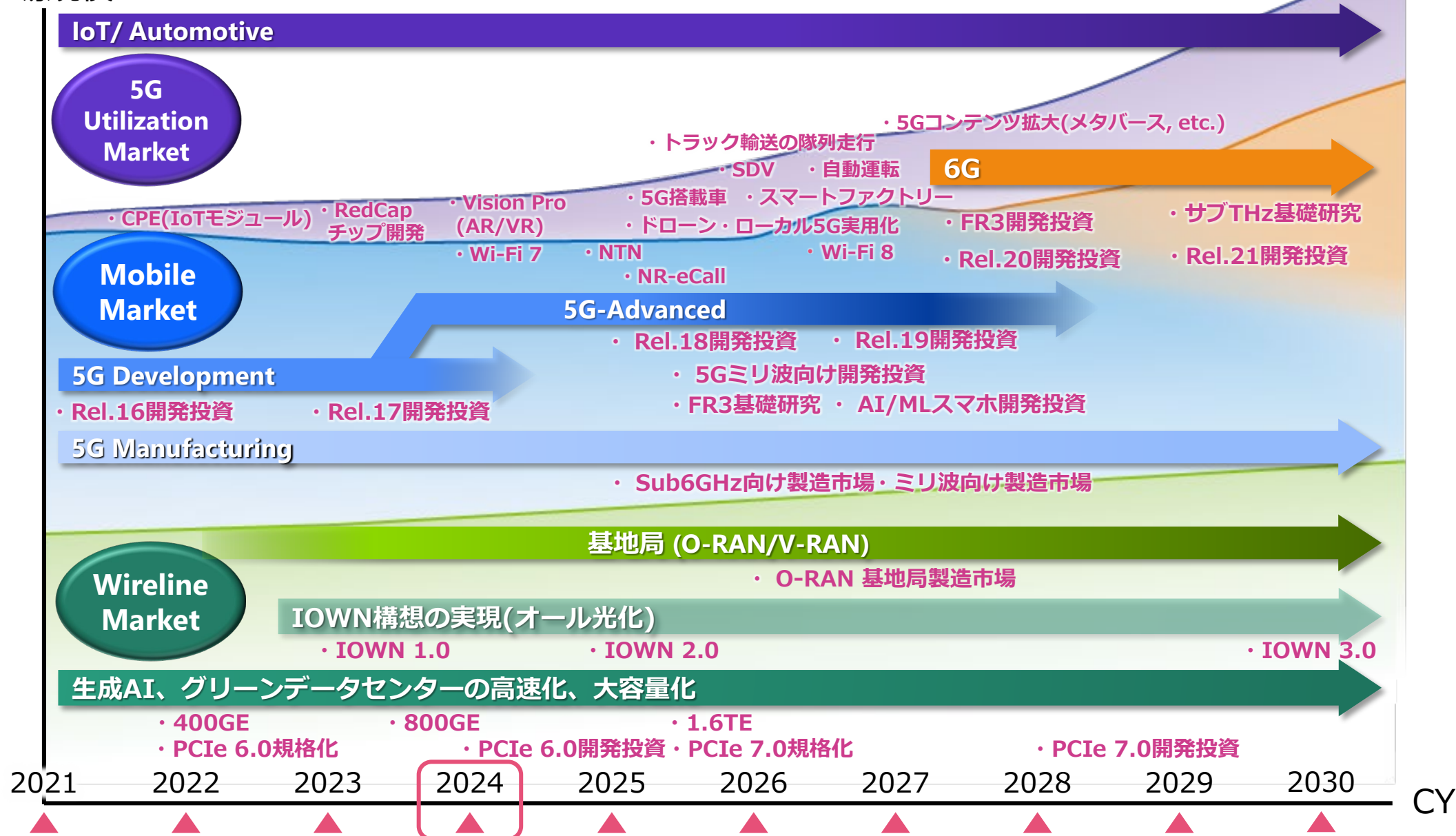
②センシング市場：眼科医用機器光源、ガス漏洩検知用機器の光源



3. 通信計測事業

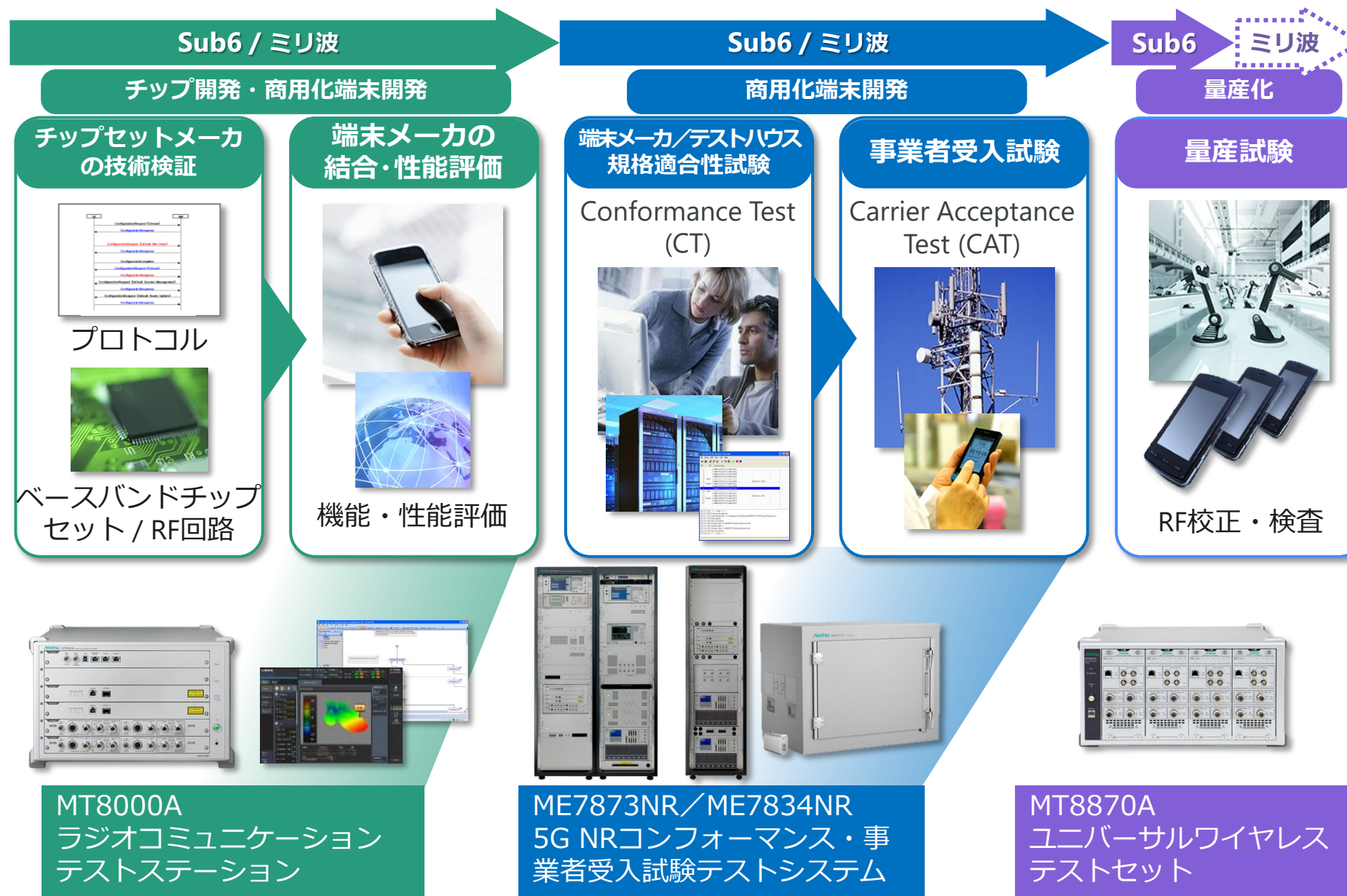
3-1. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模

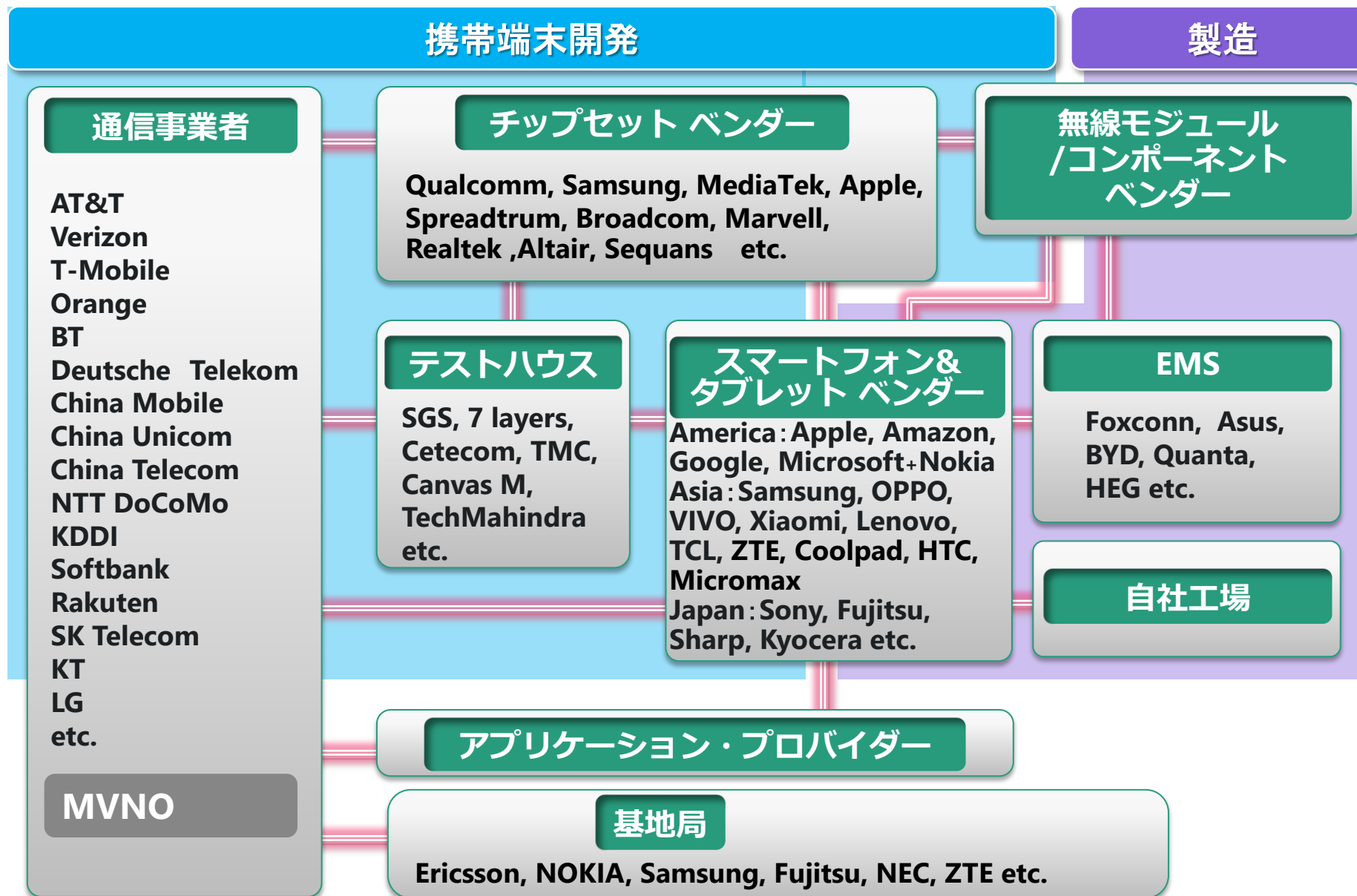


CY

3-2. 5G端末の開発・製造プロセスとテストソリューション



3-3. モバイル通信市場の業界構造



Anritsu
Advancing beyond



* 出所：一般公開情報を参考に当社作成

3-5. 5G標準化動向

	CY2019	CY2020	CY2021	CY2022	CY2023	CY2024	CY2025
	Release16		Release17		Release18		Release19
Network強化	<ul style="list-style-type: none"> • IAB : アクセスとバックホールの統合 (ミリ波を基地局間の接続にも使用) • 無線と有線のコンバージェンス 		<ul style="list-style-type: none"> • 52.6-71GHzの周波数利用 • ネットワークスライシングの強化 • ネットワークオートメーションの強化 • NTN(非地上ネットワーク)(NB-IoT) 		<ul style="list-style-type: none"> • 触覚やマルチモダリティ • 超テリトリサービス • AI/MLモデルの配信/転送 • 車両搭載通信リレー • NTN機能拡張(5G NR) 		<ul style="list-style-type: none"> • FR3 (7~15GHz) 対応 • AI/MLエアーインターフェイス • ネットワークエナジーセービング機能強化
端末機能強化	<ul style="list-style-type: none"> • 電力消費量低減を支援する機能 • Massive MIMOの強化 (マルチユーザMIMO) 		<ul style="list-style-type: none"> • さらに電力消費量低減機能 • さらに強化されたMIMO • マルチUSIM対応 • クラウドゲームのQoS向上 		<ul style="list-style-type: none"> • 住居用5G機能強化 • ミッションクリティカル通信 		<ul style="list-style-type: none"> • モビリティ機能拡張 • Duplex機能拡張 • XR機能強化
産業用IoT	<ul style="list-style-type: none"> • 高いレジリエンス (CoMP、multi-TRP等による複数の通信経路の確保) • NR-U : 免許不要な周波数帯の利用 (5GHz帯、6GHz帯) • ローカル5G (非公共ネットワークの仕組み導入) 		<ul style="list-style-type: none"> • 産業用IoT “RedCap”の導入 (旧NR-Lite) (監視カメラやウェアラブル端末のMTC向け) • 60GHz帯のNR-U 		<ul style="list-style-type: none"> • eRedCapの策定 • 鉄道スマートステーション • 5Gスマートグリッド • 低電力高精度の測位 		<ul style="list-style-type: none"> • UAV/UAM (ドローン/空飛ぶ車) • アンビエントIoT • ISAC (センシングと通信の統合)
Automotive	<ul style="list-style-type: none"> • 超高信頼性低遅延通信の強化 • TSN*による時刻同期をサポート • 高精度の測位機能 (数mの精度) • 5G V2X : C-V2Xの強化 		<ul style="list-style-type: none"> • 高精度の測位機能 (数10cmの精度) • サイドリンク通信の強化 (基地局不要の機器間通信に対応) • V2X向けマルチキャスト 		<ul style="list-style-type: none"> • サイドリンクCA • 予測型QoS • 車両用分散型アンテナシステム 		<ul style="list-style-type: none"> • 測位機能強化 (ネットワークリソース活用改善) • FR2サイドリンク

* 出所：一般公開情報を参考に当社作成

3-6. NTNの動向とアンリツの取り組み

衛星を用いるモバイルサービスやプレサービスが順次開始されてます。

3GPPが策定している5Gにおいても、Release 17にてNTN仕様として、地上ネットワークと衛星ネットワークとの統合が進められています。

MT8821Cは、NTN NB-IoT用の試験ソフトウェアを搭載することで、NTN仕様で衛星と通信を行うデバイスの無線特性の測定が行えます。

当社は、Skylo社のパートナー企業として、同社のNTNデバイス受入のための試験もサポートしています。

Anritsu skylo



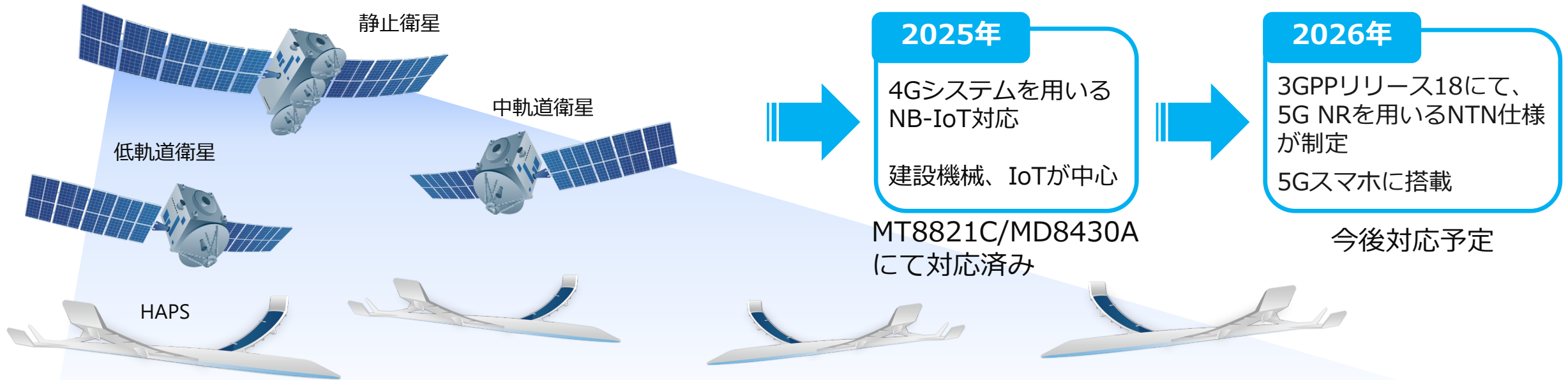
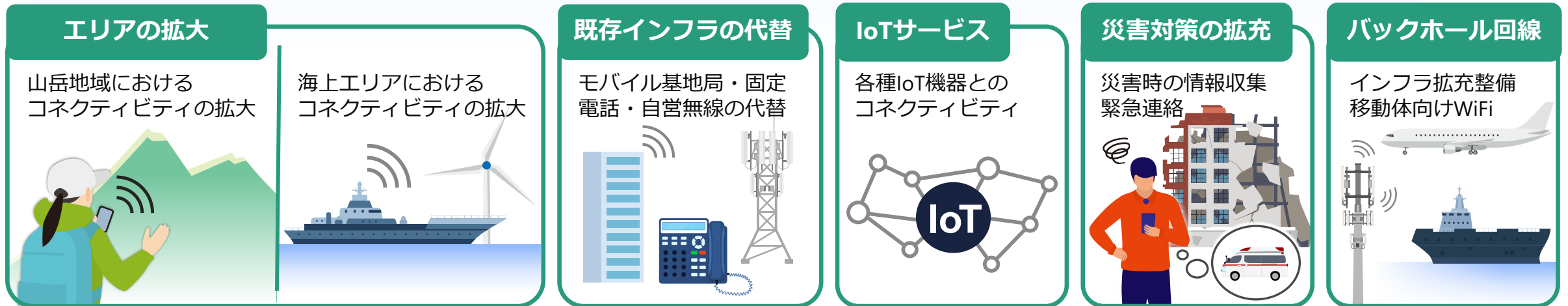
ラジオ コミュニケーションアナライザ
MT8821C

主な衛星サービス	サービス開始	契約キャリア等
Starlink	2021年	KDDI, Softbank, Docomo, T-Mobile, etc.
Skylo	2024年	Softbank, SORACOM, Telefonica, etc.
AST SpaceMobile	2024年以降	Rakuten, AT&T, Vodafone, etc.
Space Compass	2025年	Docomo, NTT
Globalstar	2000年	2022年末iPhoneからの緊急SOSのみ対応

* 出所：一般公開情報を参考に当社作成

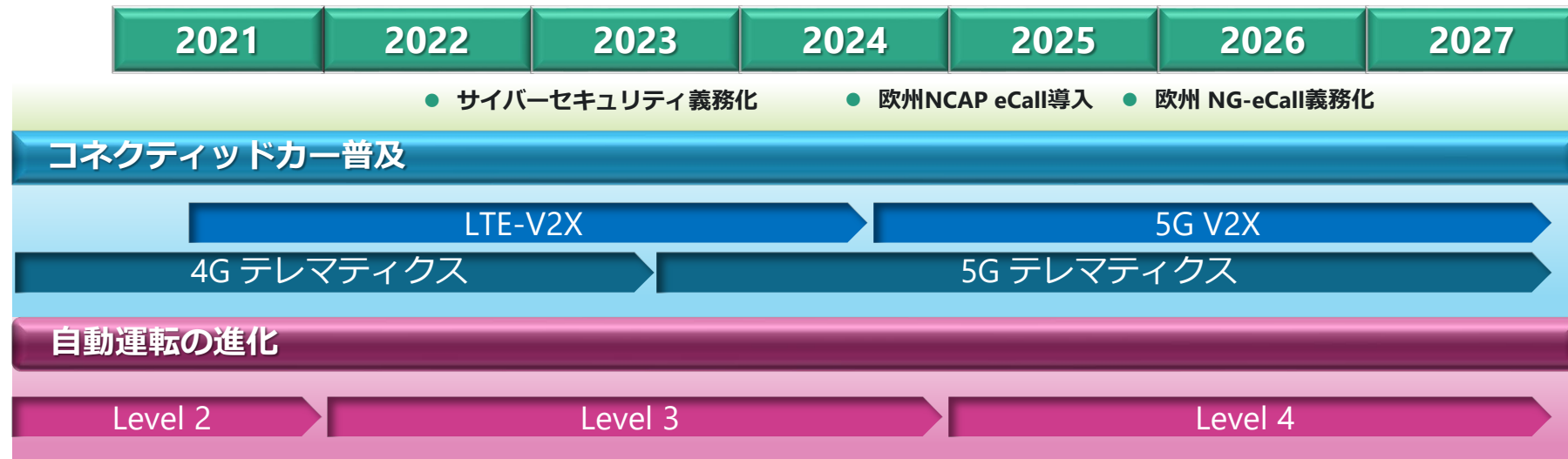
3-7. 衛星やHAPSを用いたモバイル通信のための開発向けソリューション

衛星やHAPSを用いたモバイル通信サービス実現に向けNTN規格に対応



NTN利用時のユースケース

3-8. 自動車市場における新技術の導入とアンリツの取り組み

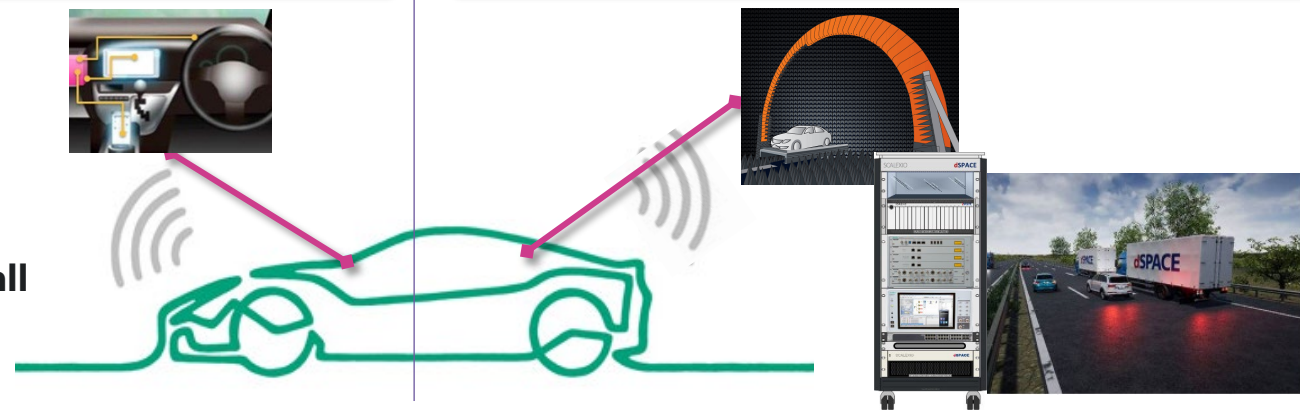


コネクティッドカー/ V2X ※ 車車間・路車間通信

5G
モバイルネットワーク
シミュレータ

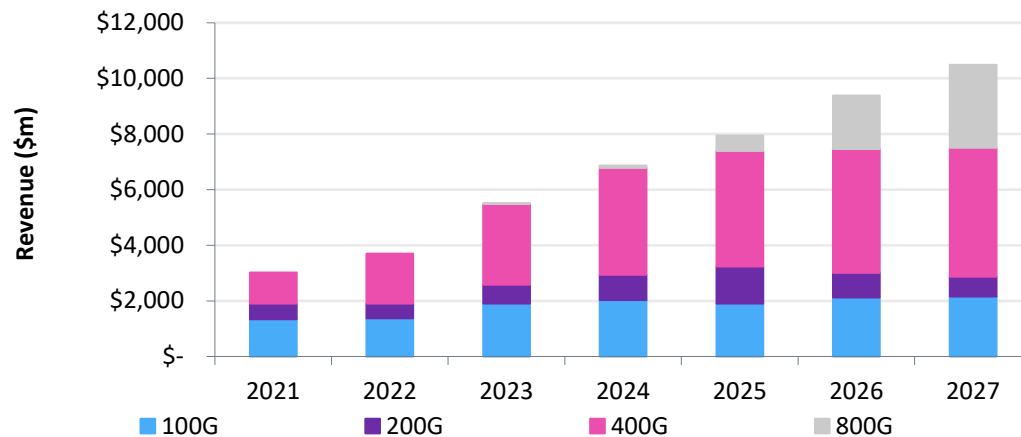
- UN-R144 (eCall), NG eCall
- Cyber Security
- V2X (802.11p, C-V2X)
- Infotainment Services

HILと連携した通信協調型サービス



3-9. クラウドサービスの拡大を支えるテストソリューション

High-speed (from 100G to 800G) optical modules by data rate



Source: Omdia

© 2022 Omdia

Source : Omdia; Datacom Transceiver and AOC Forecast: 2022-27 19 SEP 2022

急速に伸びるデータトラフィック

データセンター



- データセンター増設
- 高速化
- 大容量化
- 光化

DCI (データセンター相互接続)
高速通信
10GE/40GE/100GE→400GE/800GE

データセンター



主な競合

Viavi (旧JDSU)

主な競合
キーサイト

研究開発 ソリューション

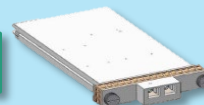


MP1900A
シグナル クオリティ アナライザ

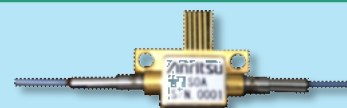
データセンター装置
(ルーター、スイッチ等)



光モジュール



光デバイス



測定対象：超高速光デバイス・モジュールなど

製造、設置、保守 ソリューション



MP2110A BERTWave



MS9740B
光スペクトラムアナライザ



MT1040A ネットワークマスタ
プロ (400Gテスト)



MT1000A
ネットワークマスタ プロ
(Ethernet/CPRI/
OTDRテスト)

3-10. サーバー内高速化のための開発向けソリューション

サーバー内通信の高速化に向けて、PCIe Gen6に対応

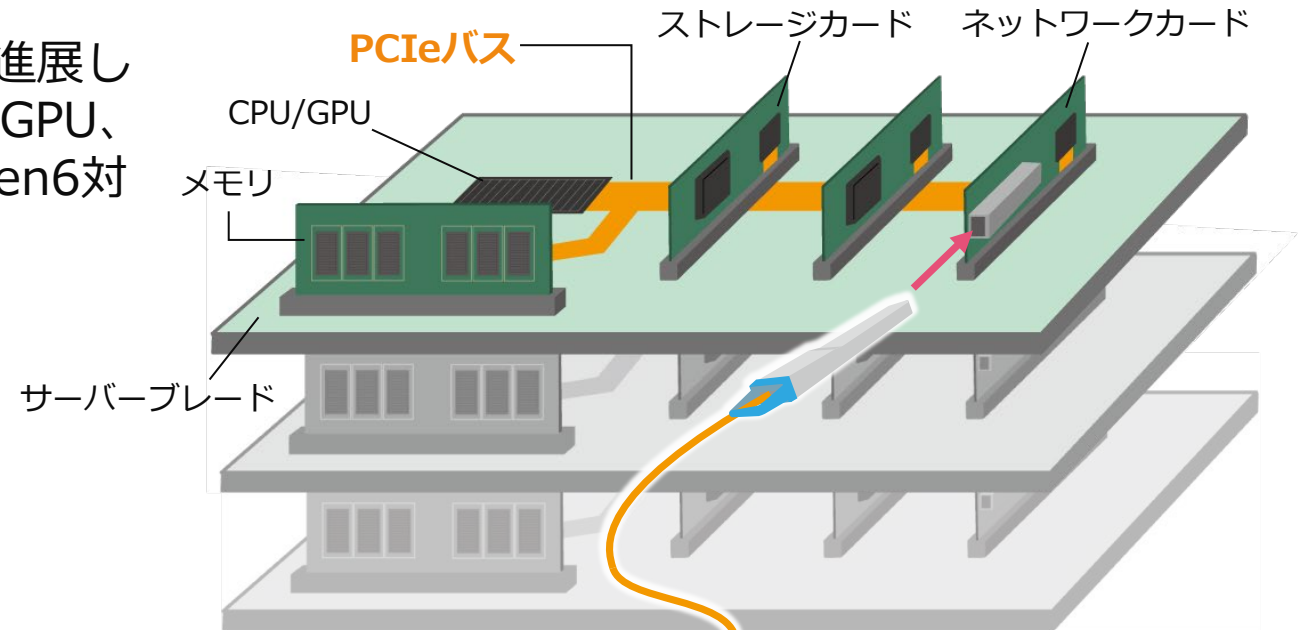
サーバー間の光ネットワークとして、800GE化が進展している。これに伴い、サーバブレード上のCPU/GPU、メモリ、各種モジュール間の高速通信にPCIe Gen6対応が進められている。

MP1900Aの強み：

- ・ 自社内製デバイスを使用することで高い波形品質の出力信号を実現
- ・ Gen6が要求するLink Training（ループバック試験）プロトコルに対応（業界初*）

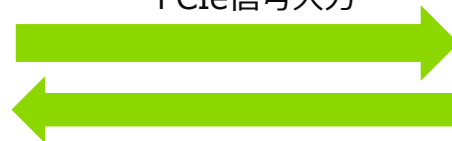
*: アンリツ調査による

データ誤り率と波形品質の評価に使用

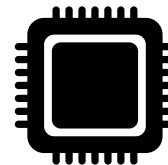


シグナル・クオリティ・アナライザ
MP1900A

受信性能試験としてひずみを加えた
PCIe信号入力

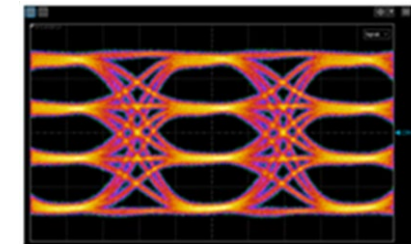


出力信号の
誤り率を測定



DUT

出力信号の波形測定



オシロスコープによる観測波形

3-11. ネットワークの高速化に向けたモジュール製造向けソリューション

生成AIの普及によるデータセンターの大容量化に伴う光トランシーバー評価に対応

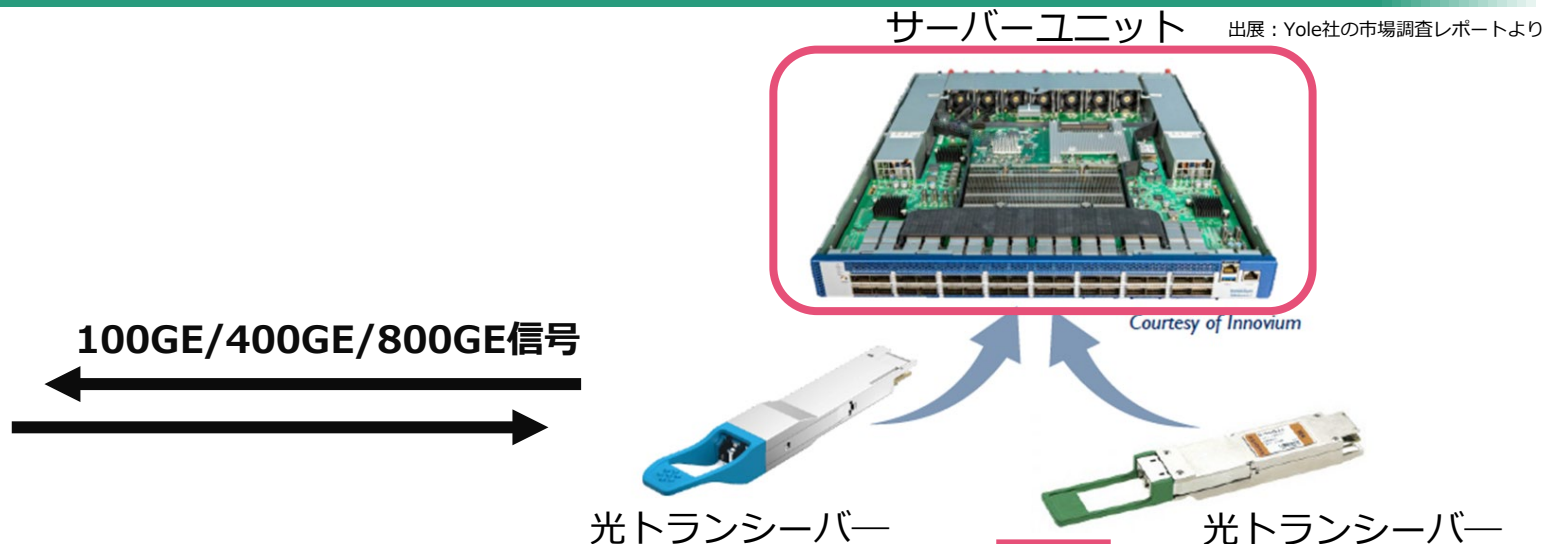


BERTWave MP2110A

MP2110Aの強み：

製造検査に最適な構成

- ・ 4チャネルの同時測定が可能
- ・ 誤り率測定と波形品質測定を1台で対応



サーバーユニット

出展：Yole社の市場調査レポートより

Courtesy of Innovium

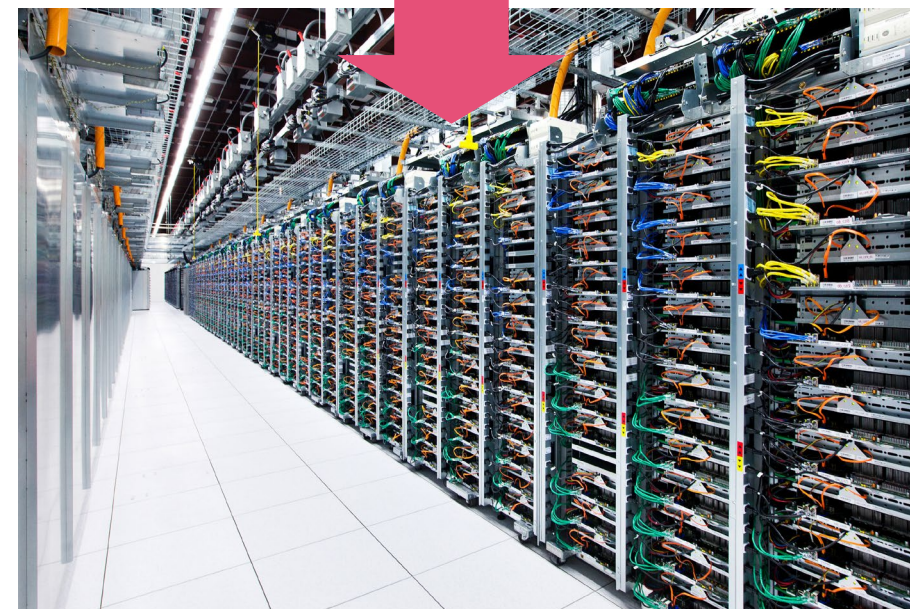
光トランシーバー

光トランシーバー

サーバーラックの裏側

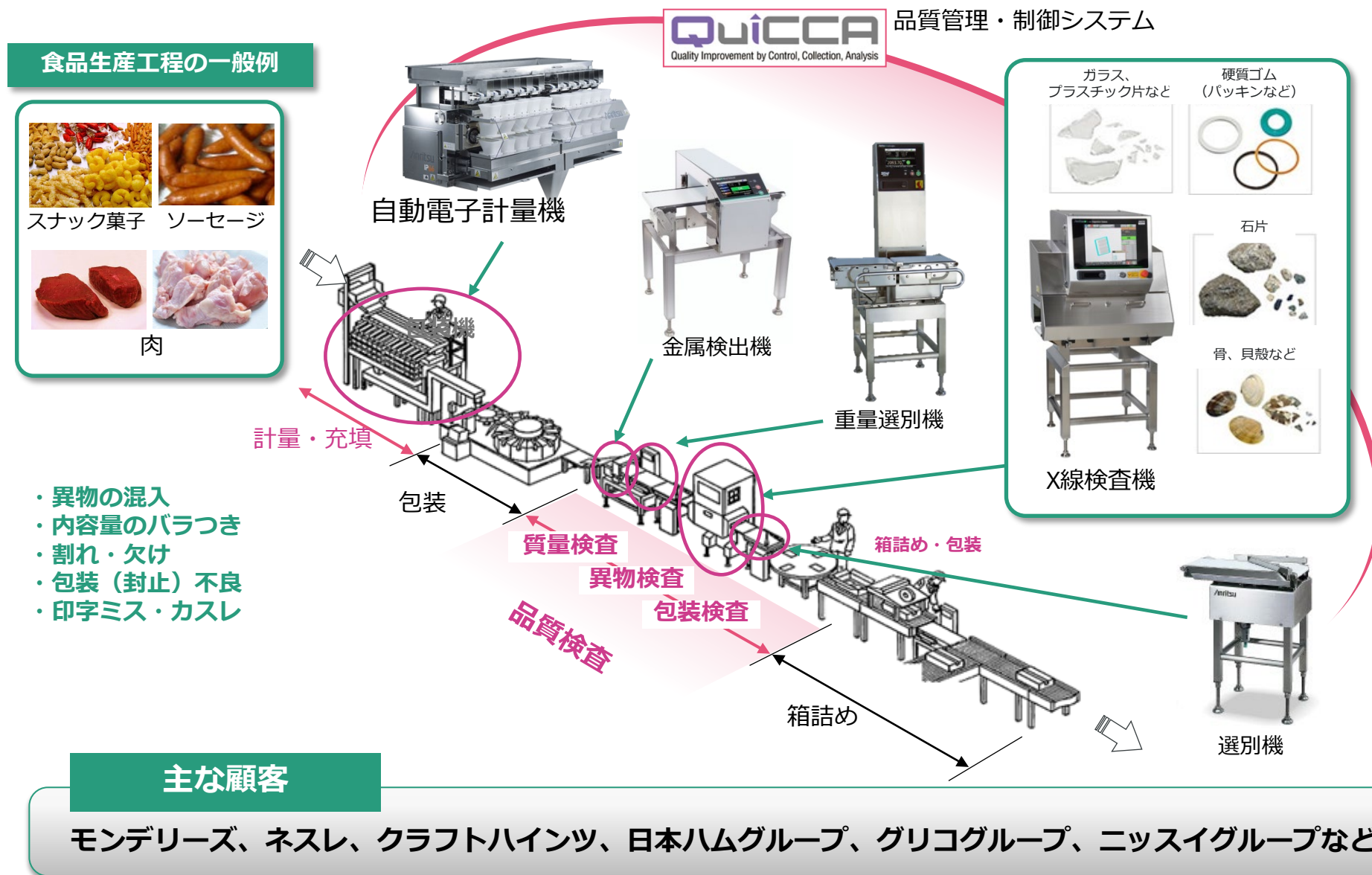
サーバーユニットに挿入される大量の光トランシーバー

出典：Explore our photo gallery - Google Data Centersより
<https://www.google.com/about/datacenters/gallery/>



4. PQA事業

4-1. PQA事業 (Products Quality Assurance)



4-2. PQA事業：市場の成長機会

市場成長機会

医薬品市場

日本・北米・中国
インド

市場ドライバー

安全への高い関心
新興国の医療改善
高齢者人口の増加

食品：先進諸国市場

欧米・日本・中国

市場ドライバー

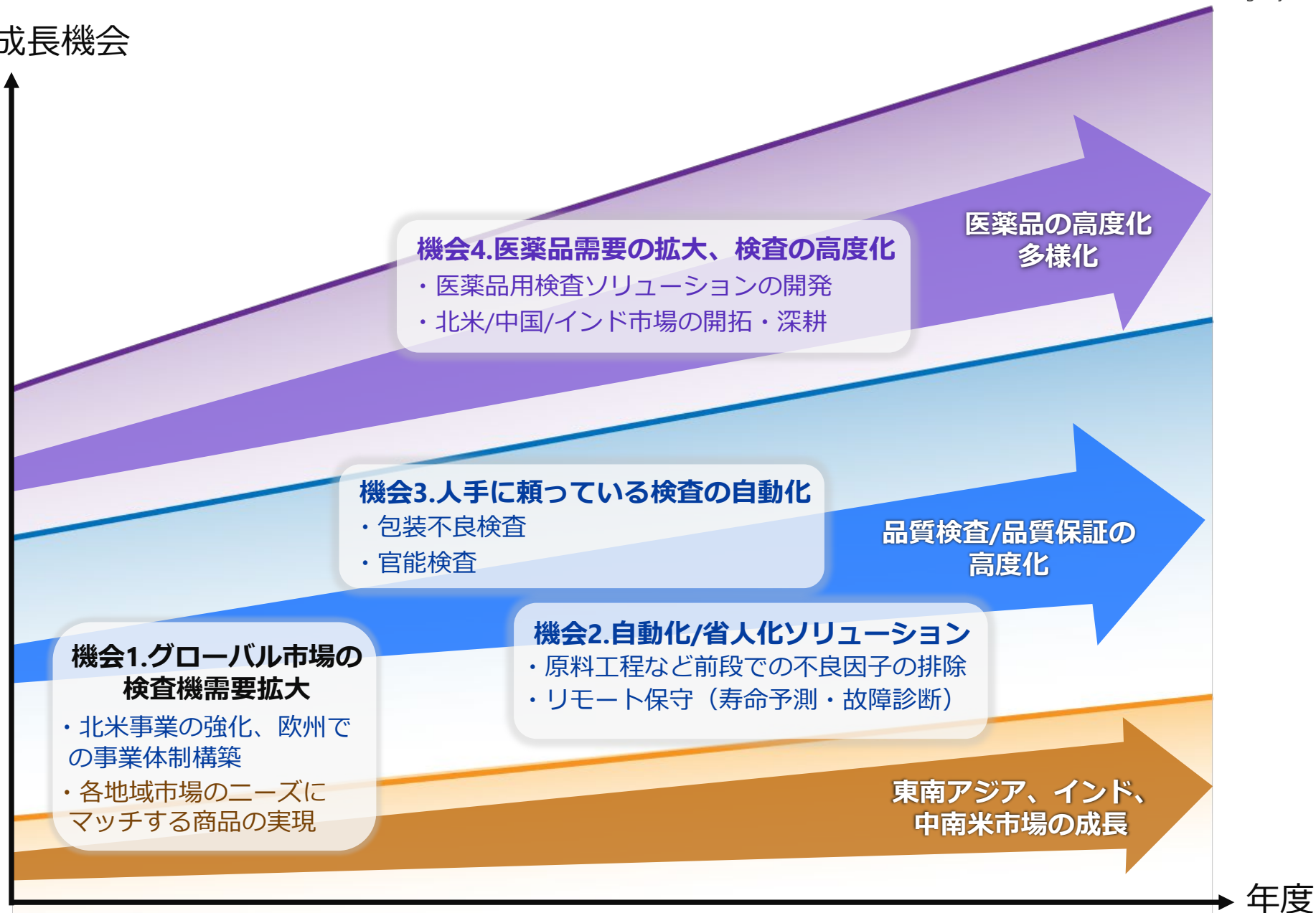
食品ロス削減・省エネ
ブランドリスク増大
労働人口の減少・少子化

食品：新興国市場

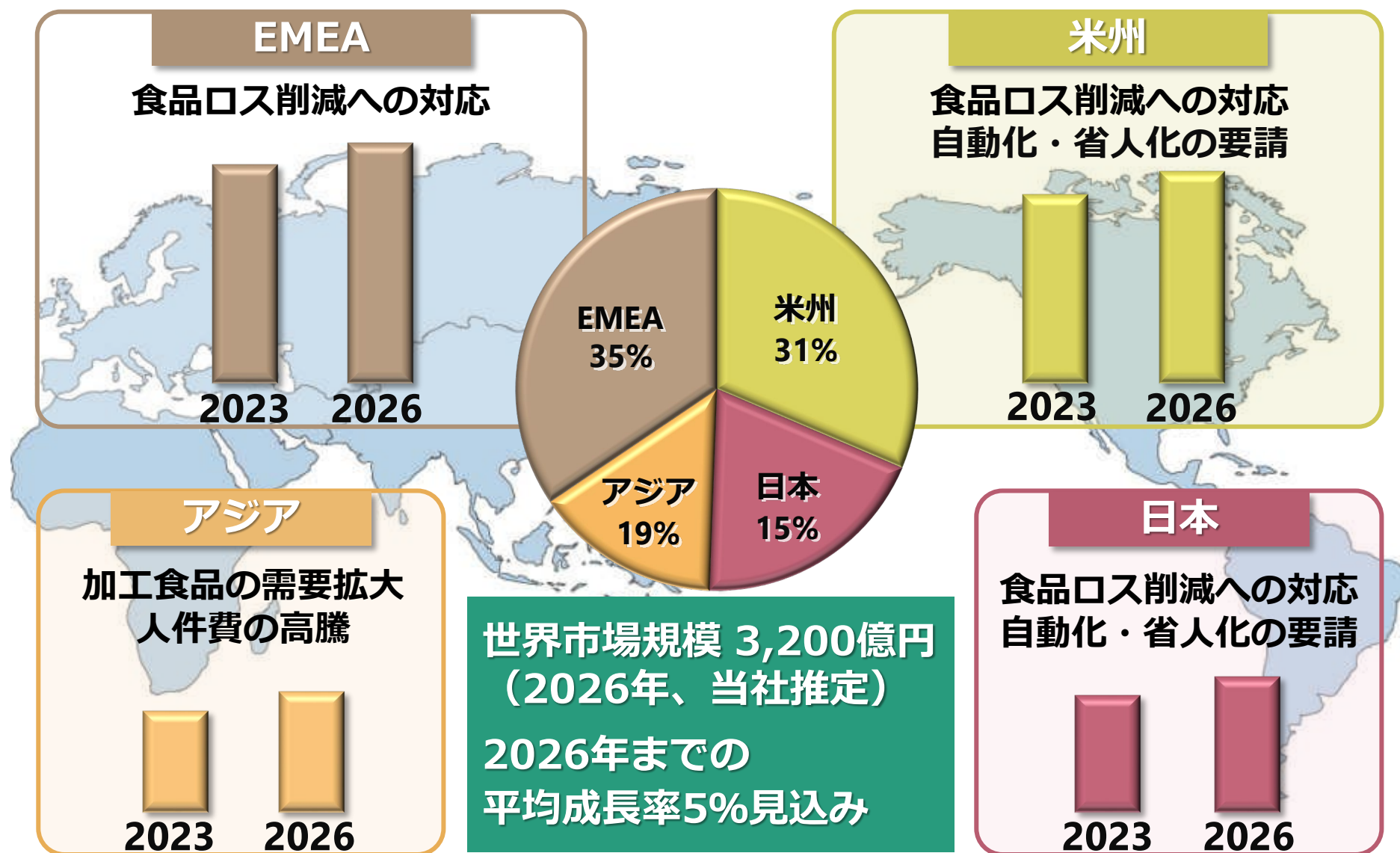
東南アジア・インド
・中南米

市場ドライバー

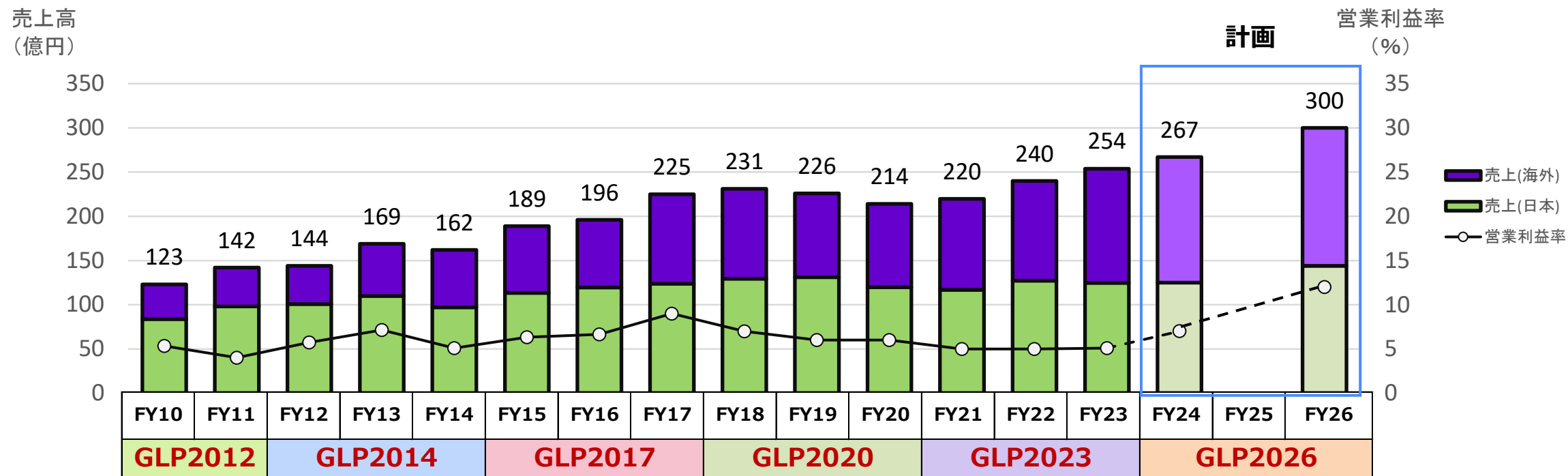
労働人口の増加、経済発展



4-3. PQA事業：PQA市場の現状と見通し



4-4. 成長するPQA事業

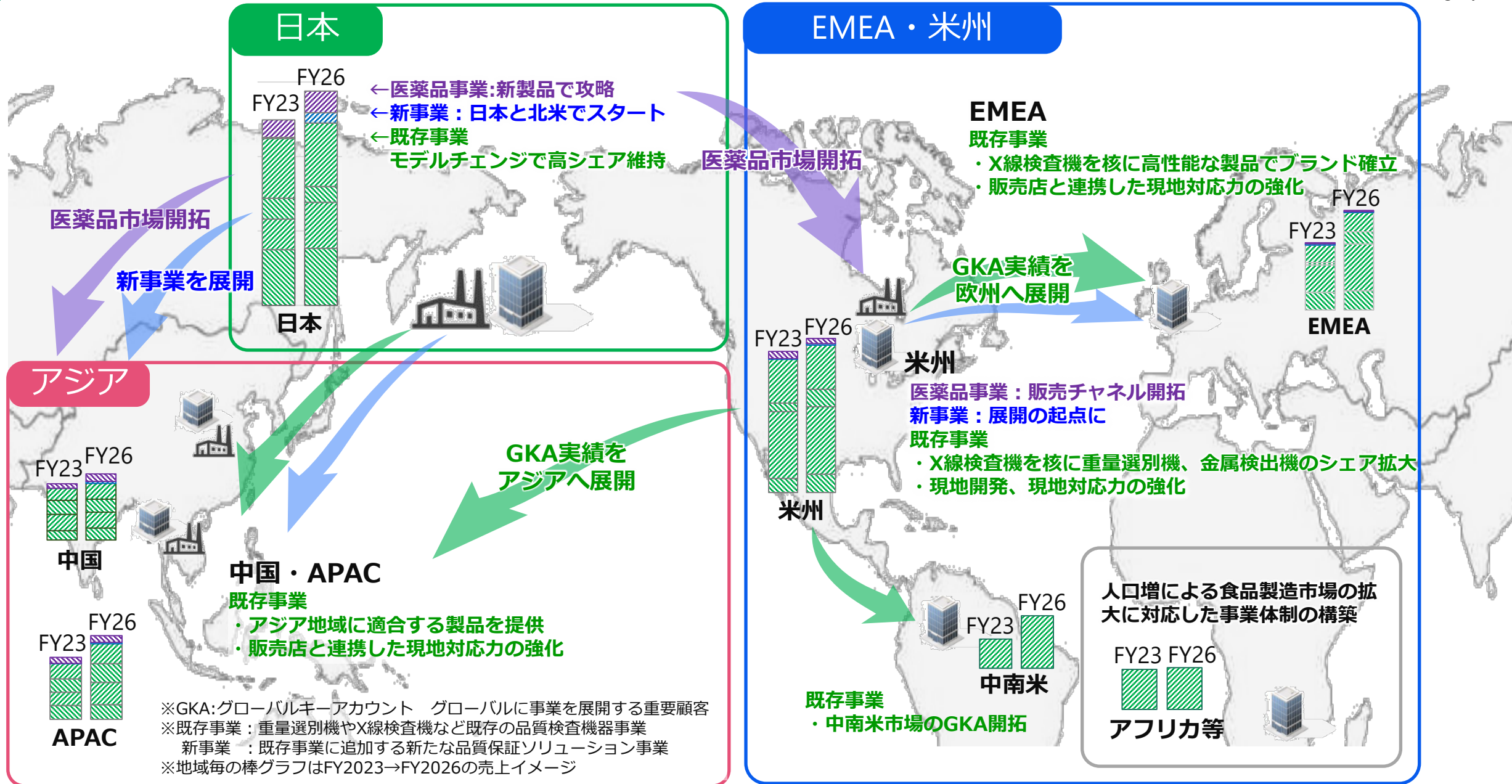


市場	主な取り組み
北米・EMEA・アジア	X線検査機をキー・ソリューションとした市場開拓
日本	最先端ニーズにこたえる高付加価値の品質保証ソリューションでシェア向上

主な競合

メトラートレド、イシダ、マレル

4-5. PQA事業：GLP2026 グローバル事業展開



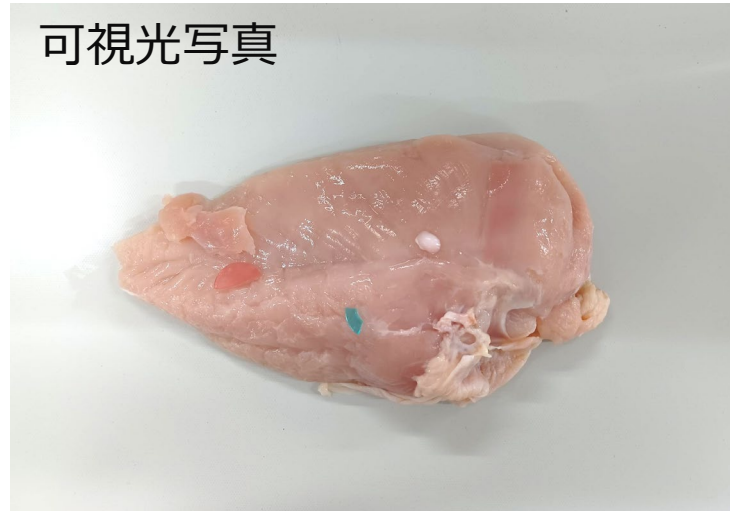
4-6. 食肉検査市場向けソリューション

AI搭載デュアルエネルギーセンサX線検査機 KXH7534ASGCD

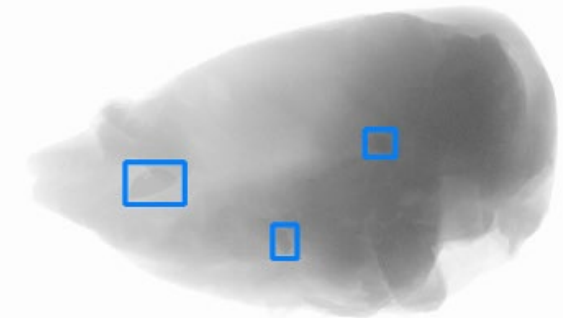


- ・ 高精細なX線撮像能力を持つX線検査機「XR75シリーズHRタイプ」に、異物検出用に開発した**深層学習型AIを搭載**
- ・ 従来のX線では検査が難しかった「**鶏肉の中の軟骨**」や「**重なりのあるソーセージの折れ**」などの検査が可能
- ・ 原材料の受け入れ時や加工工程で異常を排除することで**生産性の向上**と**食品ロスの削減**に貢献

可視光写真



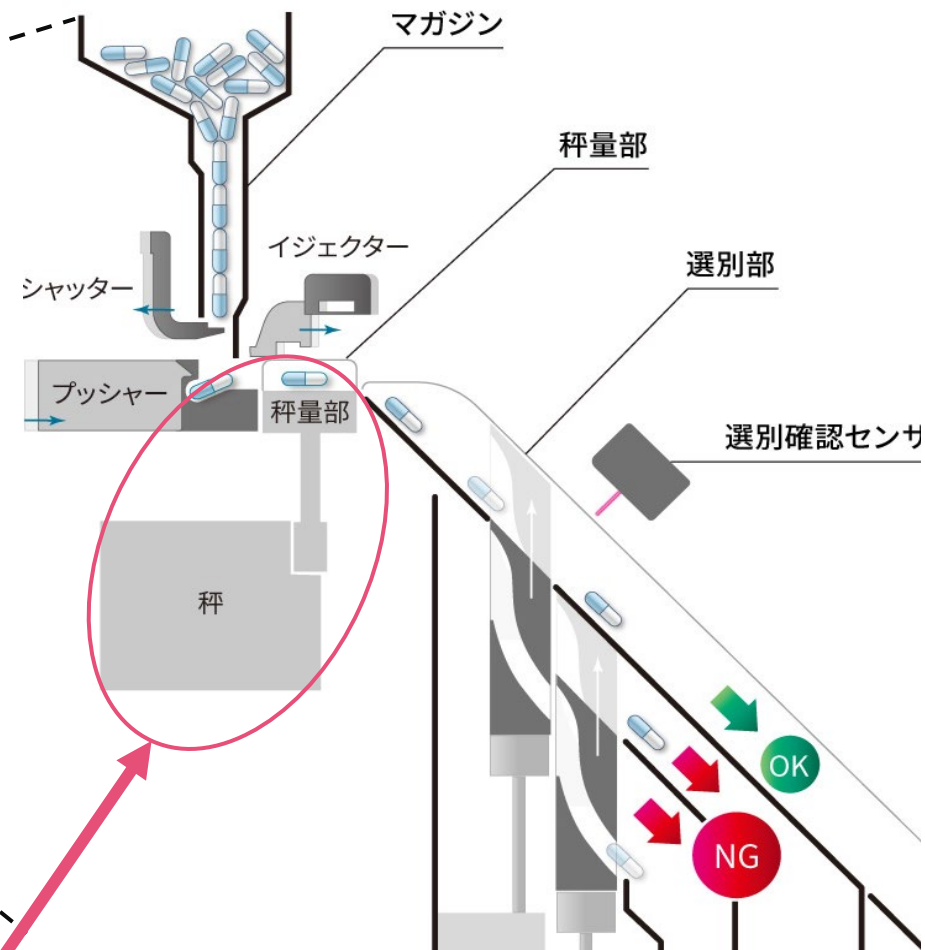
X線検出画像（青枠内が異物と判定）



鶏肉に付着した骨や樹脂（実験用ダミー）の検出例

医薬品向け高精度カプセルチェッカー

オートチェッカ（重量選別機）KWS9002APシリーズ



■ 特徴

カプセル医薬品の重量を高速・高精度で全数検査

- ・高性能フォースバランス秤は ± 0.5 mgの高精度を実現（業界最高ランク 最高測定精度*）

■ 対象顧客

- ・製薬会社

* 当社調査結果による

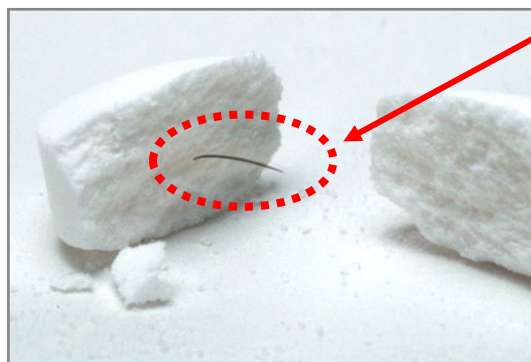
4-8. 錠剤の成分量を全数検査するNIR検査装置の紹介

NIR錠剤検査装置

NIR吸収スペクトル測定法により、錠剤内部を全数（25万錠/時）透過測定します。
生産品質のコントロールや、スケールアップ時のプロセス評価に適しています。

開発中

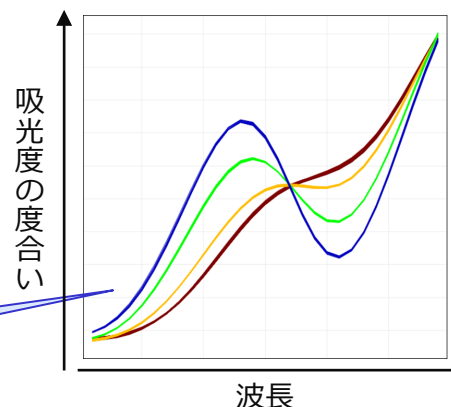
- **成分量分析**：非破壊で錠剤の成分量を検査します。
- **クロスコンタミネーションの防止**：異錠剤の混入を検出し、成分が異なる錠剤を排除します。
- **異物検査**：錠剤内部に混入した毛髪や虫などの有機由来の異物を検出できます。



混入した毛髪

主成分が高濃度なほど振幅が大きくなる

NIR吸収スペクトル測定
(データ処理後)



5. 環境計測事業

EV/電池試験事業

高砂製作所の電源事業を核に成長を加速

《重点事業領域》

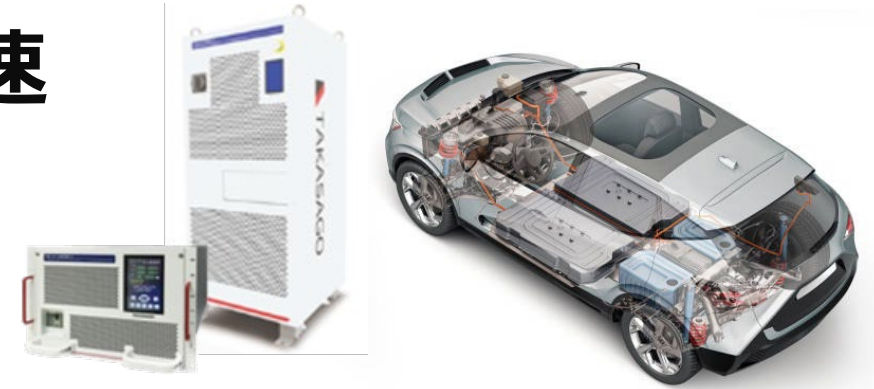
EVを中心としたモビリティの電動化と周辺市場

《事業戦略》

高砂製作所の電力制御技術と市場実績を基盤にソリューション展開を拡大

《主な施策》

- 電源システムのフレキシブル性を強化し多様化する試験ニーズへの対応
- EV/電池評価市場から周辺市場へのソリューション適用範囲の拡大
- EV普及で拡大する周辺デバイス市場に向けた製品ラインナップの拡大
- 国内事業で培った技術とノウハウを生かした海外市場開拓
- グループ生産拠点の連携強化による製品供給能力の増強



産業DX事業

「つなぐ技術」で製造現場の効率化/省人化を実現

《重点事業領域》

人手不足が深刻化する「ものづくり」の現場

《事業戦略》

通信と映像の技術で現場の安全性と生産性向上に貢献するソリューションを提供

《主な施策》

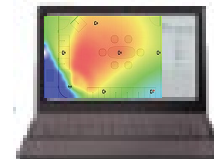
- 現場発生イベントと映像情報を連動させる“AccelVision”の投入
- ローカル5Gの導入やソリューション共創の場となる“5G LAB”の運営



AccelVision



ANRITSU
5G LAB



社会インフラレジリエンス事業

社会の安全・安心を守る通信インフラの次世代化に貢献

《重点事業領域》

品質と安定性が要求される公共性の高い情報通信システム市場

《事業戦略》

高い技術とノウハウで通信インフラ設備の円滑な次世代化に貢献

《主な施策》

- 社会インフラ保全ネットワークのフルIP化ソリューションの提供
- 自然災害への備えを支援する分散型遠方監視システムの開発
- クラウドに対応した帯域制御ソリューションの投入



6. 2025年3月期 第2四半期（中間期） 連結決算概要

6-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比 受注は4%減も、売上は5%増、営業利益は22%増の増収増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	558	535	△ 23	△ 4%
売上高	509	533	24	5%
営業利益	29	36	7	22%
税引前利益	36	34	△ 2	△ 6%
当期利益	28	22	△ 6	△ 20%
当期包括利益	71	3	△ 68	△ 95%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

6-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 前年同期比で、通信計測は増収減益、PQA、環境計測はともに増収増益

(単位：億円)

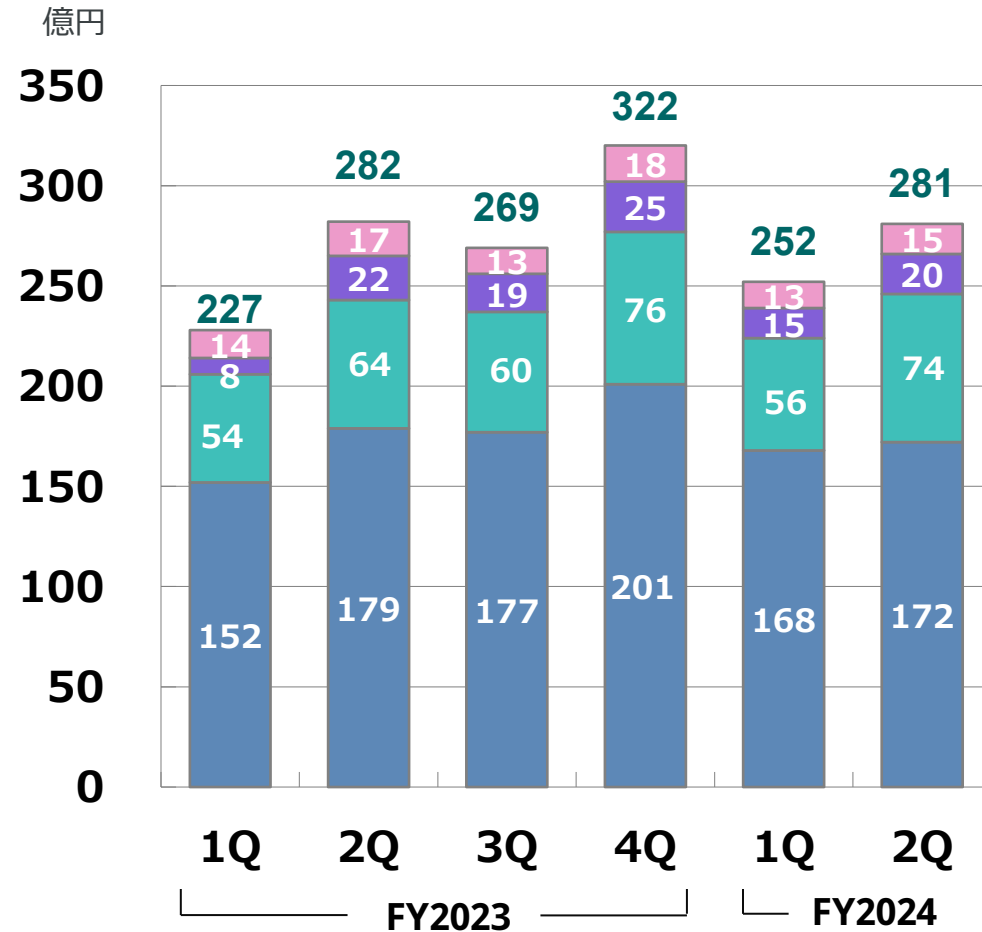
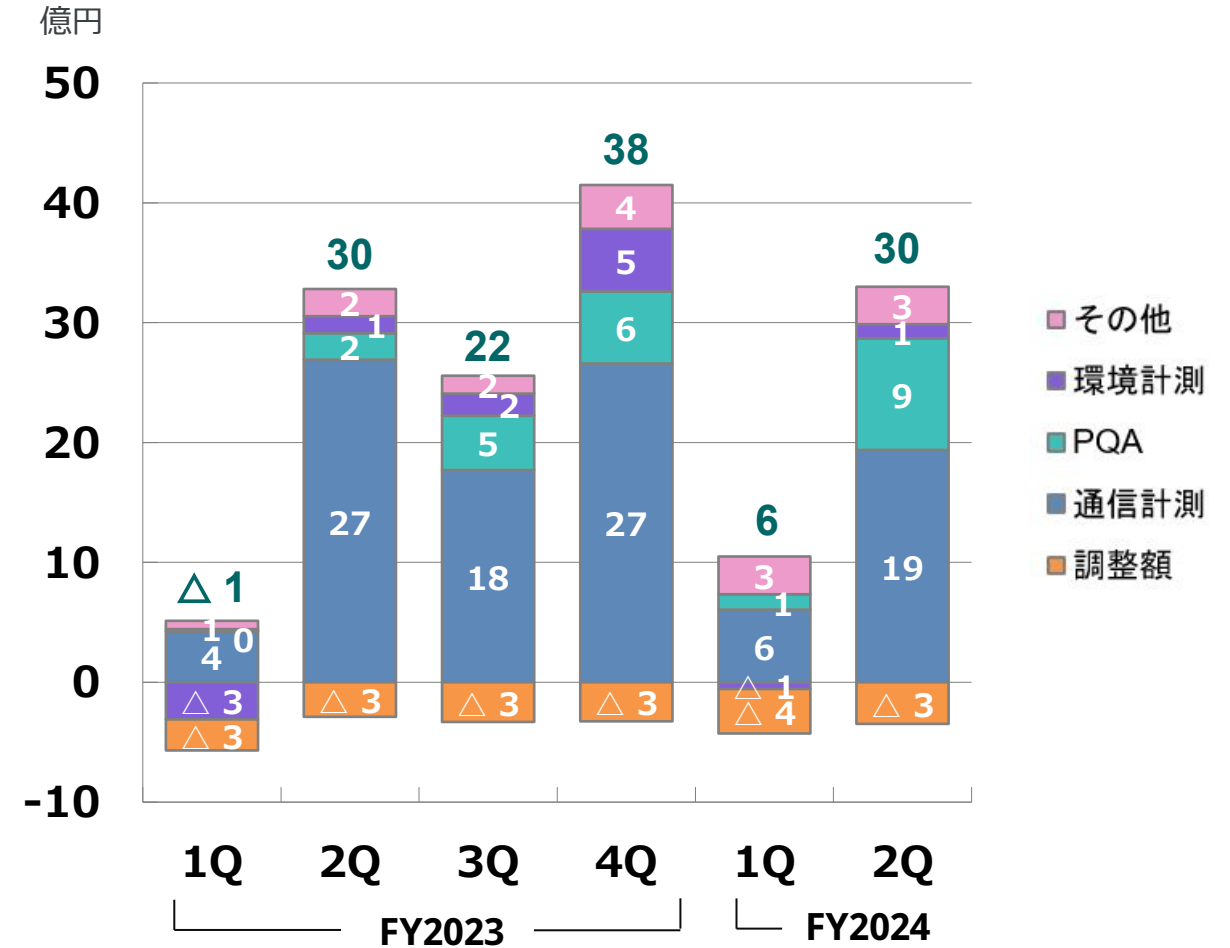
国際会計基準(IFRS)		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	331	340	9	3%
	営業利益	31	25	△ 6	△ 18%
PQA	売上高	117	130	13	11%
	営業利益	2	11	9	336%
環境計測	売上高	30	35	5	17%
	営業利益	△ 2	1	3	-
その他	売上高	30	28	△ 2	△ 7%
	営業利益	3	6	3	113%
調整額	営業利益	△ 5	△ 7	△ 2	-
合計	売上高	509	533	24	5%
	営業利益	29	36	7	22%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

6-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 2Q(7-9月)営業利益率：連結 10.5%、通信計測 11.3%、PQA 12.5%、環境計測 5.8%



(注) 値はそれぞれで四捨五入

セグメント 2025年3月期（4-9月）の状況

➡ 通信計測：世界的な物価、人件費上昇等で止まっていた設備投資が再開も、投資への慎重姿勢が継続
固定ネットワークの高速化需要は好調

モバイル 5G開発市場の投資は不安定も需要は継続

ネットワークインフラ グリーンデータセンターや生成AI専用のデータセンターの構築が加速

エレクトロニクス 6G基礎研究がスタート

アジア他・日本 中国の5Gスマホ開発市場の投資停滞もデータセンター市場が好調

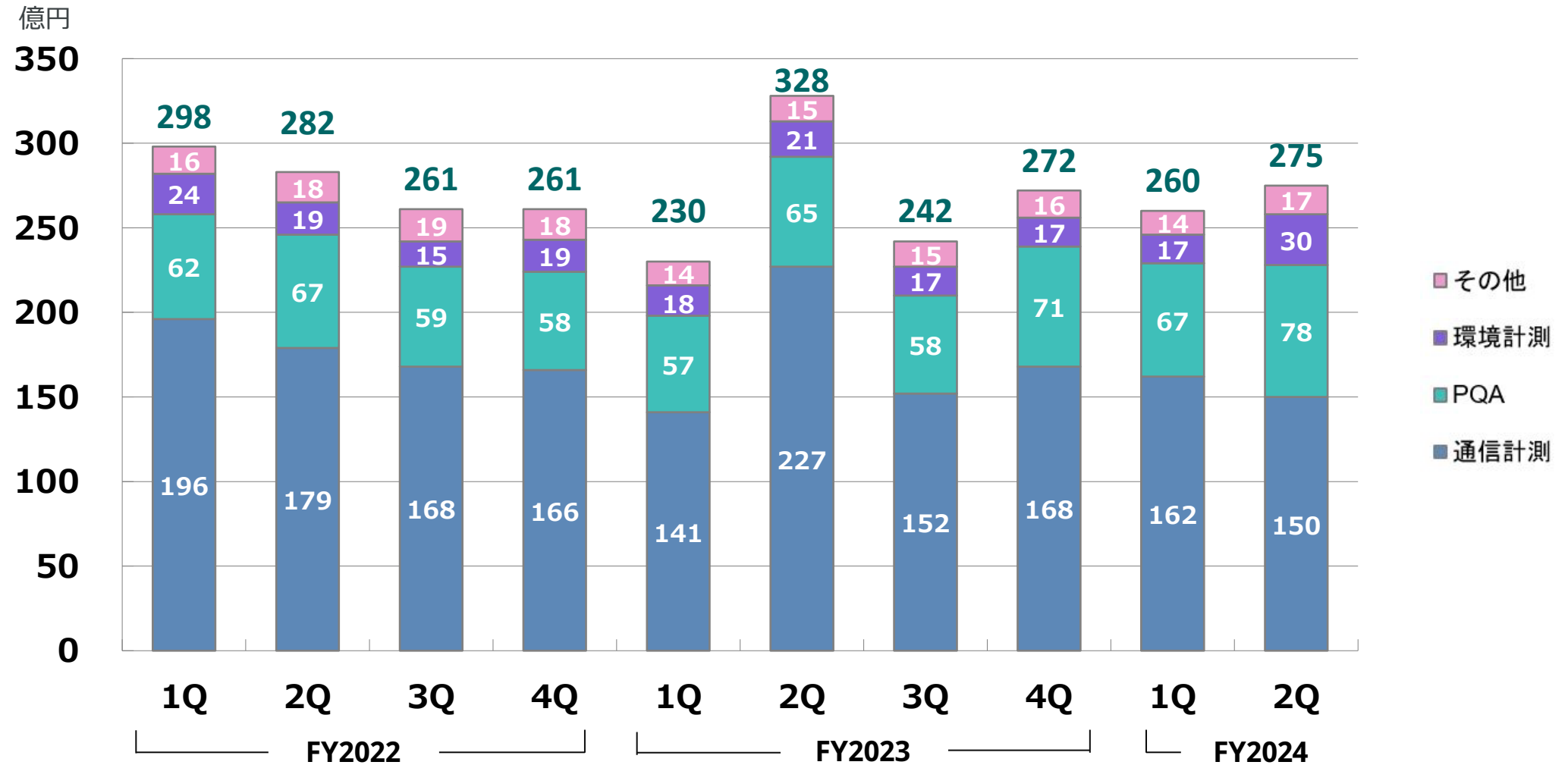
アメリカ 生成AI等によりデータセンター市場が好調
基地局建設・保守市場が低調

➡ PQA：米州を中心に海外での需要が好調。国内ではインバウンド関連需要は好調

➡ 環境計測：EV/電池向け試験装置の需要が好調

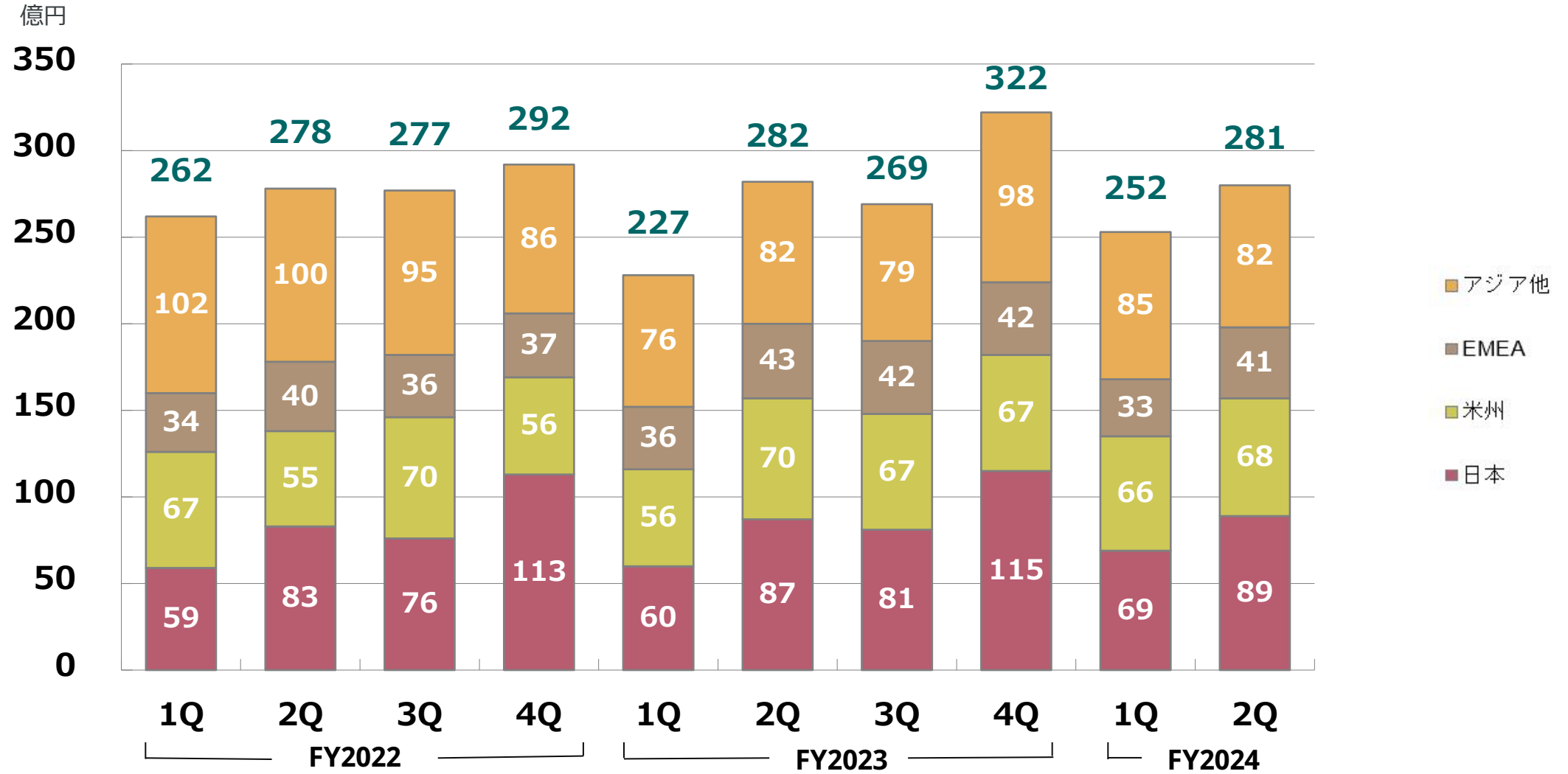
6-5. 受注高推移

▶ 前年同期比 通信計測：34%減、PQA：20%増、環境計測：44%増



(注) 値はそれぞれで四捨五入

6-6. 地域別売上高推移



(注) 値はそれぞれで四捨五入

6-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率 20.2%

FY2024 (4-9月)

- ①営業CF： 108億円
- ②投資CF： △15億円
- ③財務CF： △37億円

フリーキャッシュフロー
(① + ②)： 93億円

現金同等物期末残高
503億円

有利子負債高
64億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位：億円)

売上債権 49			
減価償却 30			
棚卸資産 20			
税引前利益 34			
税金 △13	設備投資 等 △15	配当金 △26	
その他 △12		その他 △11	
営業CF 108	投資CF △15	財務CF△37	

6-8. 2025年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 4月25日公表値から変更なし

（単位：億円）

			2024/3期	2025/3期		
			前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高			1,100	1,150	50	5%
営業利益			90	110	20	22%
税引前利益			100	110	10	11%
当期利益			77	83	6	8%
通信計測	売上高		710	738	28	4%
	営業利益		75	92	17	22%
PQA	売上高		254	267	13	5%
	営業利益		13	19	6	47%
環境計測	売上高		74	90	16	21%
	営業利益		5	7	2	30%
その他	売上高		61	55	△ 6	△ 10%
	営業利益		8	4	△ 4	△ 51%
調整額	営業利益		△ 12	△ 12	0	-

（参考）FY23 為替レート : 1米ドル145円、1ユーロ157円
FY24 通期予想作成時の想定為替レート : 1米ドル145円、1ユーロ155円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

Appendix

Appendix 1 : サステナビリティ目標（SDGs）の結果

	KPI	GLP2023の目標	2023年度実績	結果
E 環境	● 温室効果ガス*1 (Scope1+2)	2015年度比 23%削減	36.6%削減	◎
	● 温室効果ガス*1 (Scope3)	2018年度比 13%削減	38.8%削減	◎
	● 自家発電比率（PGRE 30*2）	13%以上（2018年度電力消費量を基準）	10.4% (参考：2020年度実績 3.3%)	△
S 社会	● 女性の活躍推進	女性管理職比率15%以上	12.1%（グローバル、2024年4月1日） (参考：2021年3月末実績 10.8%)	△
	● 高齢者活躍推進	70歳までの雇用及び新処遇制度確立	70歳までの雇用及び新処遇制度運用継続	○
	● 障がい者雇用促進	職域開発による法定雇用率2.3%達成	障がい者雇用率2.66%（2024年3月末）	○
	● サプライチェーンDDの強化	3年累積10社以上	3年累計で20社実施（2023年度は8社実施）	◎
	● CSR調達に係るサプライヤへの情報発信2回/年以上、教育1回/年以上		情報発信3回、教育2回実施 (3年累計で、情報発信9回、教育4回実施)	○
G ガバナンス	● 取締役会の多様性の推進	社外取締役比率50%以上	社外取締役比率50%継続（10人中5人）	○
	● 海外子会社の内部統制構築	全海外子会社が統制自己評価（CSA）の基準を満たす	全ての項目で基準を満たす会社：90% (項目数：181)	△

*1 温室効果ガスに関するGLP2023の目標値及び実績値に関しては、2022年1月に当社の子会社となった高砂製作所の数値は含みません。

*2 PGREは、Private Generation of Renewable Energy（再エネ自家発電）の略であり、「30」は達成時期の2030年ごろと自家発電比率目標値30%程度を意味します。

3GPP :	3rd Generation Partnership Project	NIR :	Near Infrared Rays
5G NR :	5th Generation New Radio access technology	NR-eCall :	5th generation New Radio emergency Call
APN :	All-Photonics Network	NTN :	Non-Terrestrial Network
AR :	Augmented Reality	NW :	Network
A-SKILLs :	Anritsu SKILLs training center	O-RAN :	Open Radio Access Network
CPE :	Customer Premises Equipment	PCIe Gen6 :	Peripheral Component Interconnect Express Generation 6
CSR:	Corporate Social Responsibility	PGRE :	Private Generation of Renewable Energy
DD :	Due Diligence	PQA :	Products Quality Assurance
EM:	Environmental Measurement	RedCap :	Reduced Capability
EMEA :	Europe, Middle East, Africa	SDV :	Software-Defined Vehicle
EV :	Electric Vehicle	T&M:	Test and Measurement
GLP :	Global Long-term management Plan	VR :	Virtual Reality
HAPS :	High Altitude Platform Station	V-RAN :	Virtual Radio Access Network
IOWN :	Innovative Optical and Wireless Network	VRU :	Vulnerable Road User
MEDT :	Mutual Energy Drive Technologies	WRC :	World Radiocommunication Conference
ML :	Machine Learning		

